



サステイナブルなひと、 生活クラブ

2021 年度版

活動ハンドブック

◆このハンドブックには、おおぜいで活動するための組織運営の知恵と工夫が掲載されています。

活動の際の不安や疑問、組織をどのように運営したらよいか、地区・支部大会で決めた方針をどのように組合員活動の中で具体化していくかを考えるヒントがここにあります。

2020 年度版より、組合員活動により活用しやすいよう、内容を簡素化し見やすい体裁に改良しました。本冊とは別に各項目の詳しい説明資料を「資料編」として生活クラブ埼玉 HP に掲載していますので詳細を知りたい場合はそちらをご覧ください（巻末に資料編一覧とリンクを掲載）。同様に「書式編」も HP に掲載していますので申請報告等の際にご活用ください（巻末に書式編一覧とリンクを掲載）。

◆活動する時はこれらの資料を用意しましょう

- ① 地区・支部・ブロック大会議案書（常時必携です！！）
- ② 生活クラブ活動ハンドブック（この冊子）
- ③ 総代会議案書またはダイジェスト版
- ④ エコロ制度ガイドブック

※個人情報の取り扱いに注意しましょう（詳しい内容は事務局にお問い合わせください）

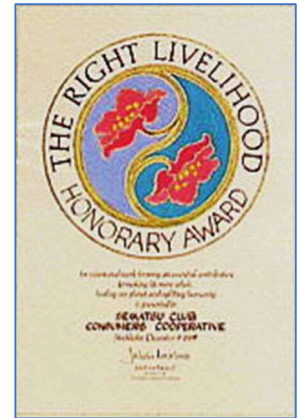
項目	頁
組 織 活 動	
1. 生活クラブ生協とは	2
【1】生活クラブは生活協同組合です	2
【2】協同組合とは	2
【3】生活クラブの理念と行動規範・各原則	5
2. 組織	7
【1】議決の流れと組合員の形態	7
【2】地区	9
【3】支部	9
【4】ブロック	12
【5】理事会	13
【6】監事会	13
【7】専従職員・共同購入ワークス	13
3. 拠点政策の推進	15
【1】くらぶルーム	15
【2】生活館	15
【3】くらぶメゾン	16
【4】三富協同村	16
【5】デポー	16
4. まちづくり活動	17
【1】組合員活動支援制度「連（れん）」	17
【2】運動グループ	17
【3】地域協議会の開催	19
5. 仲間づくり（拡大）	19
【1】消費材でつながる仲間を増やす	19
【2】ともに活動する仲間を増やす	19
【3】サステイナブル フェス！	20
【4】イベント企画立てのポイント	21
【5】イベント保険の活用	22
【6】仲間づくりの活動ツール	22
6. 情報の共有	24
【1】生活クラブの情報媒体・ツール	24
【2】ソーシャルメディア利用の留意点	26

項目	頁
共 同 購 入 活 動	
1. 共同購入（利用結集）活動	27
【1】生活クラブの共同購入活動	27
【2】生産原価保障方式	27
【3】予約（食べる約束）をすることの意義	27
【4】生活クラブの消費材 10 原則	27
【5】自主基準	28
【6】消費材の主な流れ	28
【7】共同購入活動の用語	29
2. 共同購入活動の組み立て方とツール	29
【1】消費委員会の活動	29
【2】共同購入活動の組み立て方	29
【3】利用結集のツール	32
サ ス テ イ ナ ブ ル 活 動	
1. サステイナブル活動	38
【1】生活クラブのサステイナブル活動	38
【2】生活クラブのエネギー7 原則	38
【3】サステイナブル活動の組み立てとツール	38
た す け あ い 活 動	
1. たすけあい活動	43
【1】生活クラブのたすけあい活動	43
【2】生活クラブの福祉・たすけあい8原則	43
2. エッコロ福祉委員会の活動	43
3. 4つの「たすけあい活動」	44
【1】エコロ制度	44
【2】共済（経済的支え合い）	46
【3】地域コミュニティづくり	49
【4】福祉事業（わ〜くわっく）	53
会 計	
1. 全体補助（負担）とは	55
2. 組合員活動費（新規対応費）マニュアル	58
3. 「講師料・謝礼」の取り扱いについて	61

生活クラブの活動は世界的にも評価されています。

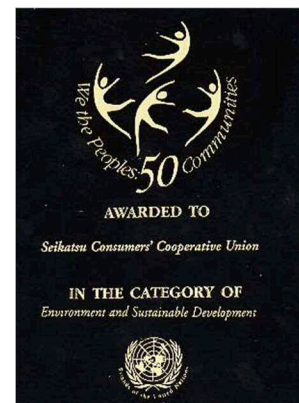
THE RIGHT LIVELIHOOD AWARD 受賞 (1989年)

1980年にユネスコ委員のヤコブ・フォン・エックスキュール氏によって創設されたライトライブリッド賞は「もう一つのノーベル賞」と言われています。社会と環境を考えた活動、民主的な経営参加、たすけあいの仕組みづくりが評価されました。日本では生活クラブ生協と、1997年に「ブルトニウムの危険性を世界中に警告した」として高木仁三郎前原子力資料情報室代表が表彰されています。

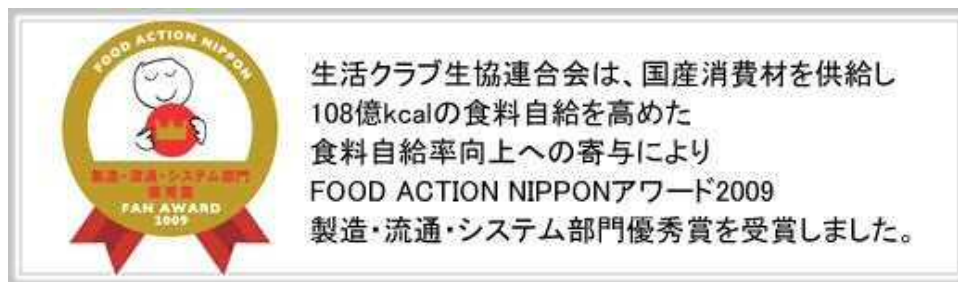


われら人間：50のコミュニティ賞 受賞 (1995年)

国連設立50周年を記念し、非政府組織である「国連の友」によって50の模範的なコミュニティが表彰されました。このコミュニティは、国連にとって重要な10部門の活動において成功を収めている市民イニシアティブの例として世界中から選ばれました。この賞の目的としているコミュニティは「共通の連帯感を有し、場の感覚をもっている人々の集まり」と規定されています。生活クラブは「環境保護と持続可能な発展の部門に関連した活動において成功したこと」で選ばれました。生活クラブは消費者が家庭の中からの行動をとおして、自然と調和した社会の創造を開始することができるということを実証しています。



FOOD ACTION NIPPON アワード (2009年)



2010、2013、2014年も食料自給率向上へ寄与したことにより入賞しました。

第6回 環境省グッドライフアワード環境大臣賞受賞 (2018年)

環境と社会によい活動を応援するプロジェクトとして、社会をよくする取組みを表彰しています。生活クラブはNPO・任意団体部門にて受賞しました。地球生態系のためのごみ減量のしくみ＝生活クラブの「グリーンシステム」が評価されています。

厚生労働大臣賞受賞 (2018年)

生協法制定70周年を記念し、消費生活協同組合、生活クラブ連合会と組合員役員に対して表彰されました。組合員と生産者との積極的な交流、組合員の参画、環境を守る活動、福祉において法の理念にのっとり健全な事業運営を行い、他の規範と認められる事が評価されました。

1. 生活クラブ生協とは

【1】生活クラブは生活協同組合です

1965年に「生活クラブ」として牛乳を共同購入したのがはじまりで、埼玉では1974年に「生活協同組合」として設立し、47年が経ちます。

現在、北海道から兵庫県までの1都1道2府17県に生活クラブは設立されており、組合員数は約40万人になっています。33の単位生協（単協）で、事業連合組織（生活クラブ連合会・生活クラブ共済連）が成り立っています。

（1）なぜ生活クラブが立ち上げられたのか

始まりは、安心な牛乳をまっとうな価格で購入したい、という願いでした。

当時は高度経済成長、商品の生産・流通は企業の独壇場で、価格も全国一律でした。化学調味料の使用が当たり前になり、公害・薬害の事件も起き始めていました。

牛乳をまとめて購入し、気持ちを同じくした有志に配達を続ける中で、素性確かな品物を求め購入していくことが、みんなの暮らしや社会を変えることに繋がる、その理念のもと生まれた組織が「生活クラブ」でした。

この過程で生産者と共に「生活する上で必要な材＝消費材」を作りあげてきました。

企業や行政が生活を基準にせず物事を進めることに異議申し立て（本当はこうしたら良いのではと提案）をしていく運動が、生活クラブの活動の原点です。

（2）生活クラブでできること～キーワードは「素性確かな」

消費者の権利は「買う（選ぶ）こと」と「買わない（選ばない）こと」。消費者の持つ購買力の結集（共同購入運動）により社会的発言力（おおぜいの意思）を持って、生産流通の改革をすすめてきました。私たちが生活クラブを利用することで、市販品の矛盾に対し私たちが「ほしい」品（消費材）をつくったり、地産地消を推進して食糧自給率の向上、非遺伝子組換え食糧の確保、食糧輸送による燃料やCO₂問題の解決、助け合いのしくみづくりなどを実現することができます。

また、おおぜいの意思を集め社会に訴えかけることにより、平和を希求していくことができます。

「安心して暮らし、生活する」視点から、私たちが「あったらいいな」と望むことの実現や、「いやだな、何とかしたいな」と思う課題を解決していくために、組合員みんなの力を集めましょう。

【2】協同組合とは

組合員一人ひとりがよりよい暮らしを実現するために「協同」し「たすけあう」しくみです。

共通する目的をもつ、個人あるいは事業者が集まり、民主的に運営・管理をしながら、営利を目的としない事業を行う組織です。

協同組合の定義（1995年 国際協同組合同盟総会）

組合員が共同で所有し民主的に管理する事業を通じ、共通の経済的・社会的・文化的ニーズと願いを満たすために、自発的に手を結んだ人々の自治的な組織

2016年11月30日ユネスコは協同組合をユネスコ無形文化遺産へ登録することを決定しました。「共通の利益と価値を通じてコミュニティづくりを行うことができる組織であり、雇用の創出や高齢者支援から都市の活性化や再生可能エネルギープロジェクトまで、さまざまな社会的な問題への創意工夫あふれる解決策を編み出している」と評価しました。

全世界で展開されている協同組合の思想と実践が人類の大切な財産であり、これを受け継ぎ発展させていくことが求められていることを、国際社会が評価したものです。

(1) 協同組合は組合員が主役です

組合員は自分自身の生活と環境をより良くするために、自分自身の資金（出資）によって、同じ想いの人と合意（運営）しながら、一人ひとりの力（利用）を集めて事業と生産を支えます。

協同組合は、一人ひとりが自立し主権を用いて、おおぜいと協同していく組織です（自主運営・自主管理）。また、自らの意思で加入・脱退することを尊重している組織でもあります。

(2) 協同組合と株式会社やNPOとの違い

*協同組合は一般企業のように利益を目的としていません。

*協同組合は「一人一票」の原則に基づいて、平等な議決権が与えられ民主的に運営されています。

*協同組合の組合員は、事業の利用者であると同時に出資者・経営参画者でもあります。

	協同組合	株式会社	NPO
目的	組合員の生産・生活の向上など	利潤の追求・株主への配当	公益の増進
根拠法	〇〇協同組合法	会社法	NPO法
組織者	組合員	株主	会員
事業	根拠法で限定	限定なし	根拠法で限定
出資者	組合員	株主	会員
利用者	組合員	不特定	不特定
運営参画者	組合員（代表する理事）	株主または株主代理人としての専門経営者	原則として会員
運営方法	一人一票	一株一票	格差設定も可能

●協同組合には農業協同組合、漁業協同組合など多様な種類があります。

(3) 協同組合の原則

I C A（国際協同組合同盟）では、協同組合の価値を実践に移す指針として、7つの原則を示しています（I C A「協同組合のアイデンティティに関する声明」/1995年9月マンチェスター大会決議）。

第一原則：自発的意志に基づく自由な加入制度

第二原則：組合員による民主的管理

第三原則：組合員の経済的参加

第四原則：自治と自立

第五原則：教育、訓練および広報

第六原則：協同組合間協同の原則

第七原則：地域社会へのかかわり

詳細は資料編1をご覧ください。



(4) 出資・利用・運営・・・ 協同組合を支える3つの柱

協同組合は組合員の「出資」「利用」「運営」によって成り立っています。

①みんなで「出資」

組合員は、自分たちの事業や活動を行うため、お金（出資金）を出し合います。この出資金により、事業が運営されています。なお、脱退する際には、出資金は全額返還されます。

健全で民主的な経営を行うためには、外部からの借入金をできるだけ減らすことが望まれます。生活クラブでは組合員一人ひとりが毎月1,000円の出資金を積み立てます。

②みんなで「利用」

共同購入で消費材を買ったり、さまざまなサービスを受けたりします。「利用する側」と「つくる側」で話し合いを重ね、売るための「商品」ではなく、使うための「消費材」を作り出しています。利用することで新しい消費材の開発を可能にし、生産者に対して安定生産、再生産を保障しています。みんなで作ってきた消費材を購入し、活用することが大きな活動のひとつです。

③みんなで「運営」

協同組合は「一人一票制」です。だれもが意見を出し合い、運営に参加する権利を持ちます。一人の声は小さいですが、みんなのおおぜいの声が集まると社会に訴えかける大きな力になります。

おおぜいの声を集めるには、主体的な組合員活動が必要となります。消費材を利用する、仲間を増やす、話し合いを重ねてお互いの理解・助け合いをすすめるなど、自分の地域をよりよくしていくために自分には何ができるのか、考えていきましょう。

(5) 一人ひとりの声を上げる仕組み

①ひとことカード

組合員の質問・意見・要望など、個人の意思を示す用紙です。

用紙は、理事会発行の情報紙「COMEONかもん」に不定期に掲載されます。

返答希望の質問・意見・要望に対してはその内容により、支部、ブロック、事務局等が検討し返答を出します。

だれが返答するのかなど、対応方法はブロック会議で確認・共有します。

情報共有 意見の内容・傾向から、地区・支部内に、どのようなニーズがあるのか把握できます。

問題解決 提出された意見の中から、地区・支部として取組みが必要と判断する案件があれば、提案者と共に調査・提案など具体的な対応を検討し、問題解決を図ることができます。

人材発掘 消費材や活動に対する積極的な評価や改善提案をする人の把握、地区・支部からの積極

的なフォローアップによる信頼獲得などで「つながる」機会を作ることができます。

関連書式 2

ひとつことカードは個人と地区・支部をつなぐパイプの役割を果たします。返答者がだれであれ、地区・支部で共有して、ひとつことカードを提出した人に丁寧に対応していきましょう。

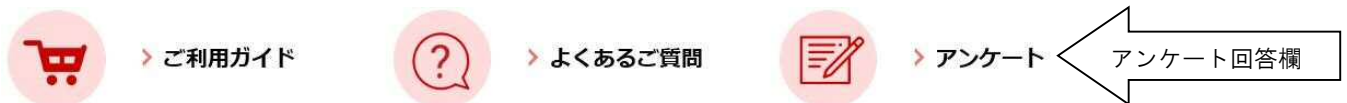
②OCR（注文用紙）・eクラブを使ったアンケート

OCR（注文用紙）の表面下部のアンケート回答欄を使って、アンケート集計が出来ます。

1、OCR（注文用紙）アンケート回答欄



2、eクラブアンケート回答欄



関連書式 3

アンケートのすすめ方は資料編 2 をご覧ください。

【3】生活クラブの理念と行動規範および各原則について

(1)『生活宣言』(ブランド・ステイトメント)と「10のThink & Act」を生活クラブの活動の基本とします。

生活宣言 (ブランド・ステイトメント)

生活することは、消費することです。“なにを” “どのように” 消費するか、という選択は、そのまま、「どんな未来にしたいか」、「次の世代へ何を手渡したいか」へとつながっていきます。

私たちは、自然と共生し、食べ物 (Food)、エネルギー (Energy)、ケア (Care) を出来る限り自給・循環させる「サステイナブル (持続可能) な生き方」を選びます。

いまを生きるいのちと次世代のいのちを、おなじように大切に考えて、すべての活動を行います。

生活クラブ行動原則 10のThink & Act

- 1：食の安全にこだわります。
- 2：健康的な食べ方を大切にします。
- 3：国内自給力アップをめざします。
- 4：遺伝子組み換え作物を認めません。

- 5：有害物質ゼロをめざします。
- 6：自然資源を大切に使います。
- 7：ごみの削減に取り組みます。
- 8：原発のない社会をめざします。
- 9：おたがいにたすけあう社会をめざします。
- 10：自分たちで決めて、自分たちで実行します。

詳細については資料編 3 をご覧ください。

(2) 生活クラブは、F(食)、E(エネルギー)、C(ケア)の充実をすすめ、暮らしやすい持続可能な地域社会(FEC 自給圏)づくりをめざします。

様々な課題に対する方針を明確にするため、FEC 自給圏づくりに沿った3原則「消費材 10 原則」「生活クラブのエネルギー 7 原則」「生活クラブ福祉・たすけあい 8 原則」を制定し、組合員だけでなく生産者も批准しています。

3 原則については資料編 22・29・32 をご覧ください。

(3) SDGs (エス・ディー・ジーズ) と生活クラブ 2030 行動宣言

世界では格差と貧困、高齢化や人口増加、生態系を維持できないほどの大量生産と消費、気候変動など、様々な困難な問題が起きています。この人間活動を主な原因とする諸問題を根本的に解決することを目指した、世界共通の目標です。

2015 年に、2030 年までに世界が達成すべき 17 のゴール*と 169 のターゲット*からなる持続可能な開発目標 (SDGs: SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS) が国連で定められました。

※17 のゴール：重要項目ごとの到達先を示した地球規模レベルでの目標を意味する。

- ①貧困をなくそう ②飢餓をゼロに ③すべての人に健康と福祉を
- ④質の高い教育をみんなに ⑤ジェンダー平等を実現しよう
- ⑥安全な水とトイレを世界中に ⑦エネルギーをみんなに、そしてクリーンに
- ⑧働きがいも経済成長も ⑨産業と技術革新の基盤を作ろう
- ⑩人や国の不平等をなくそう ⑪住み続けられるまちづくりを
- ⑫つくる責任・つかう責任 ⑬気候変動に具体的な対策を ⑭海の豊かさを守ろう
- ⑮陸の豊かさも守ろう ⑯平和と公正を全ての人に
- ⑰パートナーシップで目標を達成しよう

※169 のターゲット：地球規模レベルでの目標を踏まえつつ、各国の置かれた状況を念頭に、各国政府が定めるものであり、達成時期や数値を含むなど、より具体的な到達点、ないし経過点を意味する。



生活クラブでは、2018 年度から SDGs 達成貢献のための検討をすすめ、2020 年 6 月の連合総会で「第一次生活クラブ 2030 行動宣言」を採択しました。

行動宣言には 8 つの重要目標があり、そのどれもが日々の選択や一歩踏み出すことで達成に近く目標です。生活クラブに関わるみんなでサステイナブルな未来をつくっていきましょう。

行動宣言の詳細は生活クラブ連合会 HP をご覧ください。



(4) 2030行動宣言レポート(旧 Think & Act データブック)

「生活宣言と10のThink & Act」に沿って年度ごとの活動の成果をまとめたもので、毎年12月に発行されていました。2021年度から「第一次生活クラブ2030行動宣言」に即した8つの重要目標に沿って、目標と達成実績が掲載されていきます。

8つの重要目標それぞれのテーマに合ったSDGsの項目もマークで表されています。

レポートは連合会HPでも閲覧できます。トップページで内部検索をかけてください(【メニュー>生活クラブについて>理念・ビジョン】でもアクセス可)。組合員にもそうでない方にも生活クラブの活動を知ってもらうのに有効なツールです。印刷するなどして、活用してください。



(5) 中期計画と策定

様々な社会情勢を踏まえた上で、生活クラブ埼玉が何をめざしていくのか、どの様に行動するのか等、組合員の代表数名が5年ごとに中期計画を立て、それに沿って組合員活動を実施します。

2020年度より第7次中期計画に切り替わる予定でしたが、新型コロナウイルスにより提案を1年延期したため、2021年6月の総代会承認をもって代わります(2021~25年の5カ年計画)。

中期計画を基に次年度の基本方針を立てることを策定といいます。

本年度の活動報告とともにまとめられた策定資料は理事会が素案を作り、生活クラブ埼玉の議案書に完成させます。支部の議案書の参考資料としても活用します。

中期計画も策定資料~議案書も、組合員が意見を出し合い、みんなで作り上げていきます。

詳細については資料編4をご覧ください。

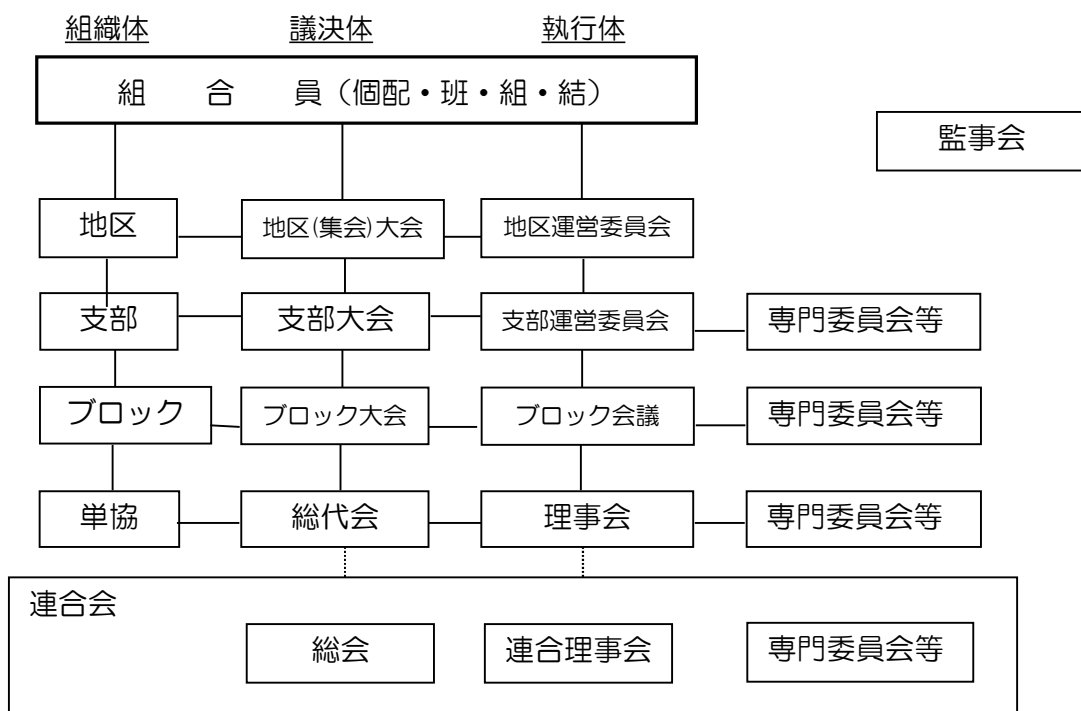
2. 組織

【1】議決の流れと組合員の形態

(1) 組合員主権のしくみ

埼玉単協の年間の活動方針は、「生協法」で定められた生活協同組合の最高議決機関である総代会で決定します。地区での議決機関は地区大会、支部では支部大会となります。

各大会で決定した目標をそれぞれの議案書に反映し、それをもとに単協全体の年度方針を決定していくことで、組合員全員が組織決定に参加するしくみになっています。



組織体	議決体	執行体	活動内容
地区（地域）	地区大会（開催方法は地区で決める）	地区運営委員会	地区・支部・全体で決めたことを、地区で具体化する場。「私」発活動を進める。自主運営自主管理と協同を学ぶ場。
支部（行政区）	支部大会（1人1票制を尊重する）	支部運営委員会	行政区を基本に地域での課題解決を行なう。地区活動交流と集約をする。全体方針について支部での具体化をすすめる。「私」発活動を進める。
ブロック（複数行政区）	ブロック大会（ブロック総代（支部組合員代表）が議決権を持つ）	ブロック会議（支部長、ブロック役員、ブロック事務局で構成）	ブロック域内での活動と予算の一部について判断し実行する。
単協（埼玉） ※「全体」と表現される。	総代会（総代（支部組合員代表）が議決権を持つ）	理事会	埼玉全体で進める活動、経営数値と運動数値の調整に関わる提案を行なう。連合・生産者・各関係機関との連携をすすめる。

(2) 組合員の形態

配送・購入の加入形態で権利や責任が変わることはありません。

全ての組合員が利用・出資・運営に参加します。

① 配送組合員

- **個配：1人** 1回の注文金額が0～3,000円（税抜）未満の場合は、個別システム手数料が150円（税抜）がかかります。加入後8週間はお試し期間として注文金額に関わらず個別システム手数料はかかりません。
- **共同班：4人から** 注文金額の多少に関わらず、個別システム手数料はかかりません。配送コスト面の優位性から4%還元が受けられます（一部消費材を除く）。
- **組：15人から** 個別システム手数料・還元については班と同様。

関連書式 4

組の運用規定については資料編 5 をご覧ください。

- ・結：300人前後の大きい組 生活クラブの活動拠点の一つ、くらぶメゾンにて運営されます。
個別システム手数料・還元については班と同様。

- ②デポ-（店舗）組合員 デポ-組合員は登録したデポ-に所属します。
デポ-カードを使って購入ができます。

【2】地区

地区の運営

- ①身近に集える範囲を基本に、自主運営・自主管理の実践と協同を学ぶ最小単位として位置付けます。設置は支部内で決定します。
- ②必要に応じ、地区の活動費を組合員から集めます。金額は地区が決めます。
- ③地区運営委員会を形成し、地区代表を置きます。
- ④委員は執行を委任されますが、活動の主体は全組合員です。
- ⑤地区大会（集会）を開催し（大会成立基準は地区独自に決定）、地区の活動方針を自主決定します。
- ⑥地区の活動方針に沿った企画や課題の解決について地区会議で討議します。合意できたことはみんなで実行し、その結果を共有します。
- ⑦支部に対して提案権を持ちます。

【3】支部

（1）支部の運営

- ①支部は、生活クラブの事業経営と運動を担う自主運営・自主管理の基本単位とし、消費材を使って仲間を増やすことに目標をもって取り組みます。また、地域に根差した組織として、人と人、行政や地域団体、「連」等を含めた出会いと学びの場を作り、生活クラブの価値を地域に発信します。
- ②支部の活動費として「組合員活動費（支部供給高に対して0.1%）」が全体から補助されます。
必要に応じて支部の活動費（支部費）を組合員から集めます。金額は支部で決めます。
- ③支部運営委員会を形成し、支部代表を置きます。
- ④委員は執行を委任されますが、活動の主体は全組合員です。
- ⑤支部大会を開催し（大会成立基準は支部独自に決定）、支部の活動方針を自主決定します。
- ⑥支部の活動方針に沿った企画や課題の解決について支部運営委員会で討議します。合意できたことはみんなで実行し、その結果を共有します。
- ⑦運営委員の中で担当を決め、ブロックの専門委員会へ参加し、情報を共有します。
- ⑧支部が主体的に地域課題を解決する活動支援と、支部予算では賄いきれない企画の実行を目的に、「支部チャレンジ予算100万円」を利用することが出来ます。ブロック会議にチャレンジを提案し承認を受けた上で、執行金額も決まります。

（2）支部はブロック・理事会に対して提案権を持ちます。

提案書の書式を使って、支部がやりたいことを伝えます。

①ブロック・理事会の予算補助を希望する場合

題目を「提案書」とし、提案の内容・目的・目標等を書き込みます。

理事会への提案はブロック会議での承認が必要です。ブロック企画会議までに提出しましょう。

②支部の議案書に記載されていない、対外的に法人名「生活クラブ生活協同組合」を使用する企画を開催する（した）場合

題目を「報告承認」としてブロック会議で確認後、理事会に提出します。

関連書式 6

（3）地区大会（集会）・支部大会の執行

①議案書の作成

《作成スケジュール》

議案書は2週間前までに組合員に届くようにスケジュールを組んで作成します。議案書の原稿は刷上り10日以上前にブロック事務局に届けます。地区・支部数の多いブロックでは印刷が集中しますので、事前に作成日程を事務局と確認します。

《活動報告・会計報告》

活動報告は、方針に対しての成果と課題の整理です。具体的な活動内容や数字があるとわかりやすくなります。

《活動方針》

地区・支部大会では、「何を目的にどのような活動をするか」を話し合えるようにします。全体の予算は各地区・支部大会の「拡大と利用目標」を基にしています。拡大数は加入数と純増数で、利用目標は班と個配を合わせた月当りの金額を記載します（必須項目）。

関連書式 5

②活動の具体化

《年間計画を立てる》

地区・支部大会の決定に基づき、年間活動計画（料理講習会、学習会、交流会、まつり、展示説明会、上映会、など）を立てます。

おおぜいの組合員が参加予定を立てやすくするために、活動の3ヶ月計画を立てます。利用・拡大の目的を明確にし、前後の活動の組み立てを行ないます。

《中期計画を立てる》

さらに、中期計画を作ると、活動の継続性が維持できます。「こんな地域にしたい」「くらぶルームや組を設置したい」「組合員を〇〇人にしたい」などです。ワーカーズや市民ネット（後述）などとも協力して、自分たちのまちづくりをイメージしていきます。

地区・支部大会で決めることにより、年間計画や3ヶ月計画を共有しやすくなります。

（4）地区・支部運営委員会の執行

①合意の形成（会議の進め方）

役割：議長、書記の選出を行ないます。

タイムテーブル：開始・終了時刻、議題ごとの時間配分を決めます。

レジュメ：その執行体の「長」（代表）が用意し、読んでわかる報告などは資料添付します。

遅刻・早退：遅刻・早退・欠席の有無に関わらず、時間通りに開始します。

空席時間の内容は本人が長と確認するようにします。

報告：まず全員から役割にそって報告を受けます。(目安は1人約2~3分)

討議：提案の主旨を明確にし、結論は最後に復唱して確認をとります。時間割にしたがって打ち切る場合は、問題の扱い方をはっきりさせます。

まとめ：決めたことを再度確認します。

<目的、目標、いつ、どこで、誰が、誰に、どうやって>

項目整理：a 別の執行体へ提起

b 専門委員会へ

c 事務局へ

d 当会議の次回討議事項へ

e 班・地区固有の問題

f その人個人の問題

会議報告書の作成：議題の主旨・主たる意見・結論を記録し、事務局に提出します。

ニュース：決定事項を地区・支部機関紙などで伝えます。

関連書式 6

②活動の点検

目的の設定：「何のためにその活動をするのか」が一番のポイントとなります。

目標：「〇〇人集める」「〇ヶ所でやる」具体的な目標を決めます。

実施方法：「どこで決めたことか」をはっきりさせ、「内容や準備作業」「どんな資料や道具を使うのか」について、話し合います。

成果の確認：「〇〇人集めた」「〇人加入した」など、目標に対しては具体的に、また目的についてもどうだったか検証します。

課題：「準備不足でできなかったこと」「目的と内容のズレがあったこと」などを確認し、次の活動に役立てます。

その他：「特筆すべきこと」「みんなに知らせたい出来事」などを整理します。

ニュース：終了後早い時期にニュースを作成し、よりおおぜいに知らせることで共有します。

(5) 支部運営委員研修

年度のスタート時に、運営委員の親交を深め、支部大会で決めた活動計画(方針)をじっくり話し合う機会とします。

支部運営委員全員が「何のために」・「どうやって」目標を達成するのかを共有していることは、重要なことです。

例えば・・・

- ・協同組合における出資・運営・利用とは？
- ・なぜ仲間づくりをするの？
- ・支部大会議案書、ブロック大会議案書の読み合わせ
- ・具体的な年間活動計画の作成・活動ハンドブックをおさらいする

・エコロ制度や生活クラブ共済、CO・OP 共済について学習する などなど
支部が認めた運営委員以外の人も参加できます。メンバーの都合にあわせて一泊二日、日帰り
企画など考えましょう。

関連書式 7 補助については P. 55 会計「全体補助の表」をご覧ください。

【4】ブロック

(1) ブロックの運営

- ①センターの配送エリアごとに、1 ブロック 1 センターが設置されています。現在 6 ブロック 6 センターで、組合員人数や配達コースにより職員が配置されています。
基本的に配達・組合員対応はブロックで完結します。
- ②ブロックは生活クラブの運動と事業を担う基本組織である支部の連合体と位置付けます。ブロック役員を置き、支部を中心とした組合員活動のサポート、支部間の調整、単協全体活動と支部活動の調整と共有機能を役割とします。また、支部の連帯による自立した主体的組織として、支部を超えた地域課題と単協政策を踏まえた地域政策を策定し実行します。
- ③支部の自主性を尊重しながらブロック予算を活用し、運営します。
- ④支部代表、ブロック役員、担当職員でブロック会議を開催し、支部と全体の活動の調整・情報共有をすすめます。
- ⑤ブロック大会を開催し、ブロックの活動方針を決定します。
- ⑥ブロックの活動方針に沿った企画や課題の解決についてブロック会議で討議します。合意できたことはみんなで実行し、その結果を共有します。
- ⑦理事会に対して提案権を持ちます。理事会への提案はブロック会議での承認が必要です。
- ⑧単協共通政策として FEC 専門委員会をブロックに設置します (F=ブロック消費委員会、E=サステイナブル委員会、C=エコロ福祉委員会など、名称はブロックで決め、交通費、昼食費の補助があります)。その他、必要に応じてブロック会議や専門委員会の下に実行委員会等を設置し新たな組合員の活動参加の場づくりに生かし、おおぜいの組合員と共に活動をすすめます。
- ⑨全体との活動・情報の共有をすすめるため、理事会・各政策委員会へ参加 (任意) します。

(2) ブロック大会の執行

ブロック大会では、「何を目的にどのような活動をするか」を話し合えるようにします。
ブロック議案書に、ブロック、各専門委員会、ブロック会計の報告と方針をまとめます。
ブロック大会の議案についてはブロック総代 (各支部から複数名) が議決権をもちます。

(3) ブロック会議メンバー研修

年度のスタート時に、ブロック会議メンバーの親交を深め、ブロック大会で決めた活動計画 (方針) をじっくり話し合う機会とします。

関連書式 7 補助については P55 会計「全体補助の表」をご覧ください。

【5】理事会

（1）理事会の運営

- ①埼玉の経営の担い手であるブロックの連合体と位置付けます。
- ②理事は埼玉全体の方針提案と合意形成、福祉事業やデポー事業等の全体で進める活動の推進、生産者や外部団体への働きかけと連携（社会化）、グループ間の連携した活動、ブロックの事例共有を役割とします。
- ③埼玉全体ですすめる活動を執行する機関として政策委員会（共同購入・サステイナブル・たすけあい・デポー）を設けます。
- ④各ブロックから2名の理事を選出します。
- ⑤理事、監事、担当職員で理事会を開催し、支部・ブロックと全体・連合の活動の調整・情報共有をすすめます。

（2）総代会の開催

埼玉単協議案書に、理事会、各政策委員会、単協会計の全体報告と方針をまとめます。
理事会の議案については総代（支部単位で選出）が議決権をもちます。

【6】監事会

監事は全体方針の執行が各機関において適正に行われているかどうか、理事会から独立した立場に立って審査します。

【7】専従職員・共同購入ワーカーズ（配送・事務局）

職員は、組合員の行う大会や総代会決定に基づき、以下のような業務を委任され執行しています。職員は組合員活動に対しての決定権はありません。組合員が決定した約束事に即して対応しています。しかし、組織が活動を継続して行く上で重要な位置に立ち、アドバイスやサポートは積極的に行います。

（1）職員の役割

- ①組合員活動がスムーズに運営できるように資料作成、情報収集、分析を行い、必要に応じて具体的な活動企画を運営委員会に提案します。
- ②組合員組織が自主的・自発的に運営・管理できるようサポートします。
- ③資金、施設、車両、設備等組合員の財産を保全・管理します。
- ④共同購入システムに則り、申込用紙配布、回収、集計・発注・集金、配達を行います。

（2）共同購入ワーカーズ

組合員への配送と組合員対応を含む業務の一部を担っています。
各センターのワーカーズの名称は、以下の通りです。

狭山：クローバー、所沢：ハニーBee、川口：わかば、越谷：そら、大宮：SOU（走）、熊谷：つくし

(3) 組織の協業と分業

(2006年11月理事会)

	内容	組合員	事務局
全ての活動に 共通	企画・立案の作成及び決定	○	
	方針の具体化に向けて提案	○	
	資料作成		○
	実態調査(内・外)	○	○
	活動のための事前準備(広報・組み立て・プレ企画)	○	
	活動の実行・促進(呼びかけ)	○	
	活動の後処理(整理など)	○	
	総括(結果の把握、改善、次回への提案)	○	
	活動計画の作成と達成	○	
	活動や会議の報告・共有	○	○
	企画・立案の進捗管理	○	○
	活動意義を伝える	○	
	活動や作業の専門性と継続性の確保		○
	配達時や委員会での呼びかけ		○
生協車両を使用した運転		○	
組織拡大活動	ちらし配布	○	○
	戸別訪問	○	○
	展示説明会	○	○
	加入したい人の対応	○	○
	説明後のフォロー	○	○
	加入後対応	○	○
利用結集活動	消費材やサンプルの注文	○	
	消費材への意見・要望集約(クレーム含む)	○	
	消費材への改善提案	○	
	生産者見学・交流会の申請	○	
	生産者見学・交流会手続き・準備	○	○
	事故品への対応		○
共済・福祉活動	エコロサポートの要請対応	○	○
	エコロのコーディネート	○	
	エコロサポーターリストの作成・配布		○
	福祉事業への参画	○	
	福祉事業に関わる調整		○

	福祉事業の日常業務		○
	CO・OP 共済の加入呼びかけ・説明	○	○
	CO・OP 共済金の給付に関する手続き		○
情報・広報活動	機関紙の発行のための原稿依頼	○	
	機関紙の発行のための取材	○	
	機関紙の発行のための編集	○	
	機関紙の発行のための校正	○	
	機関紙・組合員ニュースの印刷・帳合・配布		○
	業務ニュースの作成・印刷・帳合・配布		○
	埼玉カタログの取材・編集	○	○
	埼玉ホームページ・メールマガジン作成・配信		○
追加;その他の活動	組合員活動拠点の管理	○	
	本部・センターの管理		○
	共有財産・備品の管理		○

3. 拠点政策の推進

【1】くらぶルーム

- ・支部の持ち物です。共同購入を核としたまちづくりの拠点であり、地域に貢献できる「居場所」とします。
- ・毎日開所する事で「にぎわい」を作り出します。（20日/月の開所を目指します。）
- ・支部2ヶ年計画を2年毎に更新し、拠点をどのように活用していくのか、支部組合員間での共有をすすめます。
- ・よりおおぜいの支部の組合員が、拠点活動に関わりを持てる事を目指します。
- ・運営については関係団体による運営委員会を設置します。
- ・53支部中21支部、23か所で開所しています（2021年2月現在）。

関連書式8 各くらぶルーム情報、運営ルール・補助等詳細については資料編6をご覧ください。

*2021年度は現行ルールに基づく運営を継続しますが、第7次中期計画で提案する拠点活動方針に基づき、2022年度からのブロック予算に基づく新たな運営ルール開始に向けブロックで設置・撤退を含む独自ルールの検討をすすめることになっています。

【2】生活館

- ・埼玉全体の持ち物です。物流センターの移転跡の建物を改修して組合員活動スペースとして活用しているセンターを「生活館」に名称変更しました（1999年～）。
- 共同購入を核としたまちづくりの拠点であると同時に、生活クラブの福祉政策に基づいて、自分たちの暮らしを豊かにし安心して暮らせる地域づくり「市民参加によるまちづくり構想」の拠点としています。

- ・毎日開所する事で「にぎわい」を作り出します。(20日/月の開所を目指します。)
- ・支部・地区組織、生活館管理者、組の代表者、生活館を活動拠点とする他団体とともに生活館運営委員会を設置し、運営ルール⁸の決定や活用の豊富化などをすすめます。
- ・生活館運営委員会・支部・ブロック・理事会による生活館協議会を持ち、「まちづくり構想」の具現化をすすめます。
- ・生活館のある支部では、当該地区以外は、くらぶルームの設置を可能とします。
- ・狭山、所沢、越谷、草加、北本の5か所で開館しています(2021年2月現在)。

関連書式8 各生活館の情報、運営ルール・補助等、詳細については資料編6をご覧ください。

【3】くらぶメゾン

- ・ライフスタイルの多様性をできる限り吸収しつつ共同購入を核としたまちづくりを進め、多くの組合員や地域の人が協同して地域の課題を解決に導く場となることをめざします。
埼玉が取り組んでいる「組」や「くらぶルーム」、運動グループ(生活クラブ、市民ネット、ワーカーズの協議会)や地域のNPO、ボランティアグループ、環境・福祉・平和・教育などのグループとの協同の経験と力量を生かし、地域に発信する機能を高め「地域協同社会づくり」をめざすための拠点としています。
- ・月曜日から金曜日まで、毎日メゾンで共同購入「結」を開所しています。「結」の運営と業務は各メゾンの結ワーカーズが担っています。
(各メゾンのワーカーズの名称 鶴ヶ島：a.n、志木：樹、越谷：たのしい輪)
- ・鶴ヶ島、志木、越谷の3か所で開所しています(2021年2月現在)。

関連書式8 各くらぶメゾン情報、くらぶメゾン構想とルールについては資料編6をご覧ください。

【4】^{さんとめ}三富協同村

埼玉県南西部の4市1町(川越市・所沢市・狭山市・ふじみ野市・三芳町)にまたがる三富地域は江戸時代の農作物生産基地でした。平地林(ヤマ)の恵み(落ち葉堆肥等)を畑に施し作物を作る、320年以上続く循環型農業がおこなわれています。

その三富(さんとめ)の地に、遊び仕事の拠点、人が交流する拠点、未来を作る拠点となる「農」を中心に据えた埼玉単協の協同村を作ります。

狭山市にある平地林約7,000㎡を生活クラブが保有しています。また、所沢市内の農地を農家から借りています。その平地林(どんぐりヤマ)では協同村運営委員会のイベントだけでなく、ブロックや支部、連の活動でも、ルールに基づいて、活動舞台として使えるようにしていきます。

協同村のコンセプトについては資料編7をご覧ください。 関連書式 36

【5】デポー

様々な出会いから新しい可能性を生み出し、組織政策・共同購入・地域社会に貢献する拠点とし

て、埼玉単協のデポーを作ります。デポーの組合員対応と業務はデポーワーカーズが担います。

2021年度はデポー所沢とデポー越谷の開所を計画しています。

デポーワーカーズの名称： デポー浦和：つきうさぎ / デポー所沢：あした場

4. まちづくり活動

私たち組合員が力を合わせて、より良い暮らしを実現していくためにまちづくり活動をします。

「人まかせにしない」生活を自治する組合員として、環境や福祉などを考え地域の仲間（連・生活クラブ運動グループ等）と共に、FEC ネットワークづくりに取り組みます。

【1】組合員活動支援制度「連（れん）」

組合員活動支援制度「連」は、組合員が支部を越えて自主的に興味、関心によって集う活動です。

組合員が3人以上集まれば連を作ることが出来ます。組合員でない方も参加できます。

地域社会において多様なつながりが再生・創造されることをめざしています。

関連書式9 運営ルール・補助等、詳細については資料編8をご覧ください。

【2】運動グループ

（1）埼玉ワーカーズ・コレクティブ連合会

①ワーカーズ・コレクティブ（W.Co）とは、自分たちで出資し、話し合い、雇われるのではない
平等な立場で事業・活動をすすめる働き方です。地域に必要な機能として、「食」「環境・リサイク
ル」「福祉」などの様々な事業を生み出しています。

地域の課題やニーズに対して、「自らつくる働く場」として、多様なワーカーズづくりを進めます。

連絡先：埼玉ワーカーズ・コレクティブ連合会 電話 048-767-7511

メール saitama.waakore@gmail.com

・県内で45団体のワーカーズ、2団体の準備ワーカーズが活動しています（2021年2月現在）。

関連書式10 ワーカーズ・コレクティブ一覧、利用の詳細については資料編9をご覧ください。

②ワーカーズ・コレクティブへの広報支援ルール（2019年12月度理事会確認）

・活動紹介までの広報協力を行ないます。

・支部とワーカーズ双方で活動連携が明文化されている場合は事業に関する（メンバー募集等）広
報協力を行ないます。

※業務委託ワーカーズは生活クラブの事業委託をしているためこの限りではない。

・組合員へ広報する場合、印刷物を配達便で使用する場合は、支部運営委員会の承認を取ってから
配布する。

・印刷経費はワーカーズ負担。

・ワーカーズ準備会については別途生活クラブが支援を行っています。

（2）埼玉県市民ネットワーク

ネットワークは、市民の「代理人」を議員として送り出し、暮らしの中から
生まれた身近な声を政策に活かします。市民の政治参加をすすめ、政治を市民



の道具として使いこなします。小さな声がまちを大きく変えていきます。

【所在地】〒343-0041 越谷市千間台西 1-9-13 B

【メール】saitamaken.shimin.network@gmail.com

【ホームページ】<http://saitamaken-shimin.net/>

・県内で9団体のネットワーク、3団体のネットワーク準備会が活動しています（2021年2月）。

【各地域ネットワークの情報、連絡先の詳細については資料編 10 をご覧ください。】

（3）特定非営利活動法人 大人の学校

大人の学校は、生活クラブ生協埼玉 30 周年の記念事業として 2008 年 11 月に設立、2009 年 4 月に NPO 法人として認可を受け、「生活クラブ運動グループ」の仲間になりました。

「食」「市民力」「健康」「生活・文化」などをテーマとした講座や「まちあるき」などのツアー、また社会的な問題や課題について考える講演会などを企画し、参加した人たちが自ら発見し、考え、実践していくための出会いと学びの場を提供しています。

地域での学びを応援するため、講師派遣などのご相談にも応じています。

【講師派遣のやり方やメニュー例】については資料編 11 をご覧ください。

NPO法人 大人の学校

電話/ファクス 048-423-3313

メール otonano-gakkou@cure.ocn.ne.jp

〒333-0857 川口市小谷場 206 生活クラブ生協内



（4）NPO 法人 コミュニティケアクラブ埼玉（CCS）

CCS は、2010 年 5 月に NPO 法人として「生活クラブ運動グループ」に仲間入りしました。

ワーカーズ・コレクティブや同じ協同の価値観をもつ団体や多くの市民と協働して、たすけあいワーカーズや福祉グループづくりを進めています。市民事業を核として、地域に生活する誰もが利用者や担い手として参加することができる相互扶助によるたすけあいのしくみを創り、共助の領域を拡げていきます。

2015 年 4 月からは生活クラブの福祉事業を引継ぎ介護保険事業を始めました。

子育て支援に関する講座「NPプログラム」「ほめほめ子育てトレーニング（ほめ*トレ）」の講師派遣も行っています。

【講座メニュー】は資料編 35 をご覧ください。



NPO 法人 コミュニティケアクラブ埼玉 TEL/FAX：048-424-8600

〒333-0857 川口市小谷場 206 生活クラブ生協内

メール ccs0527@ace.ocn.ne.jp ホームページ <http://ccs0527.wixsite.com/ccs3>

（5）三富ライフファーム株式会社

三富ライフファーム(株)は 2020 年 8 月末をもって解散しました。

（6）生活クラブ運動グループ宣言とまちづくり方針

2003年から、生活クラブ生活協同組合、埼玉ワーカーズ・コレクティブ連合会、埼玉県市民ネットワークの3者で形成し、2015年からNPO 法人大人の学校、NPO 法人コミュニティケアクラブ埼玉（CCS）を加えた5者となり、「まちづくり方針～5年後のF E C自給圏づくりに向けて～」を打ち出しています。

「宣言」「まちづくり方針」については資料編12をご覧ください。

【3】地域協議会の開催

地域を住み良くし、共同をすすめるために、支部・ブロック単位で考えていく場を設けることが出来ます。

地域協議会には、自主的に地域の課題を捉えその解決を事業と活動によって持続的に進める個人、団体が参加することとし、生活クラブ運動グループ5者、地域の活動団体やボランティアグループ、NPO、サークル等に参加を呼びかけます。

5. 仲間づくり（拡大）

【1】消費材でつながる仲間を増やす

「あったらいいな」を形としたものが消費材です。その消費材を利用する多くの仲間を増やすことで、社会に、「私たちが必要としているものは何か」ということを訴え、だれもが安心して暮らしていける社会の実現をめざしています。

食材や生活財だけでなく、暮らしの中の課題解決のための道具であり、**共済や生活クラブでんきも**大きな意味での消費材です。

【2】ともに活動する仲間を増やす

「仲間づくり（組織拡大）」は生活クラブの原点です。ひとりがひとりの《未来の仲間》に呼びかけることから始まります。一人ではできないことでも多くの仲間と協同して解決します。

＜仲間づくりで目指すところ＞

- ①提携生産者の再生産の保証を持続・発展させ、市場経済のもつ問題を解決する力を高めます。
- ②私たちの事業と運動の土台を安定させ、社会へ働きかける力を高めます。
- ③新しい人の加入で組織を活性化させ、運営力を高めます。
- ④新たな人との関係が広がることで、地域のコミュニケーションが豊かになります。

全体から補助のある制度も活用し、組合員でない人の参加を促すようなイベントを組み立てましょう。参加した人の興味・関心がどこにあるかを知り、そこを切り口に生活クラブへ関心が向くようにすすめます。

まだ組合員ではない方との会話は私たちにとっては、小売店等の市場の実態や近所づきあいを知る機会です。組合員や生産者との協同の仕方を説明し、反応した人には、加入を勧めます。

【3】サステイナブル フェス！ 2021（4月5日～8月31日）

全国の生活クラブで一斉に「サステイナブル フェス！」をすすめます。コンセプトは「サステイナブルなひと、生活クラブ」を体感すること。生活クラブに参加することで、食だけでなく「ソーシャルグッド*」な暮らしを送ることができるという認知を広めます。

「認知度や共感を醸成することで、紹介活動を活性化させ、加入を獲得するサイクルを作ること」がゴールです。組合員も未加入者も参加しやすい企画（展示説明会、イベント出店、生産者交流会、食育講座等）の統一名称とし、イメージカラーとグッズをもって拡大活動と統一感を持った広報展開を行います。また、2021年度は新型コロナウイルス感染拡大状況も踏まえ、オンラインでのコミュニケーション強化をすすめ、リアル開催とオンラインの拡散力をミックスさせたキャンペーンとしていきます。

*ソーシャルグッド：地球環境や地域コミュニティなどの社会に対して良いインパクトを与える活動や製品、サービスの総称

参加の仕方は以下の通り。

- ①みんなで体験型イベント・オンライン企画に参加しよう！
- ②自分で出来る「サステイナブル」をSNSに投稿しよう！
- ③友だちや知人を誘ってみよう！



広告・PRで大きなうねりを。内発的な盛り上がりで一人ひとりの口コミ力・紹介を引き出していこう！というキャンペーンです。

普段の企画の他に共通イベントも用意されています。

<体験型イベント>

◇クリーンアップ大作戦

みんなでゴミ拾いをします。組み立ては自由。ゴミの種類や量などを確認して、マイクロプラスチック問題などを学習します。



◇創作昆虫ムシボット

木製のベースに、家に眠っている端材やプラスチックごみを使って作ります。本格派の仕上げが得意です。3Rや不用品の再生などについて考えます。Rピンをアピールしてゴミを出さない資源循環の暮らしを考えます。子どもたちが工作している間に親御さんに消費材を体感してもらうこともできます。



土台や標本箱が入った「基本セット」の他、「端材セット」等も発注できます。詳細は事務局にお問い合わせください。

<オンライン企画：サステイナブル フェス！公式YouTubeチャンネル（3月1日～）>

動画コンテンツのプラットフォームとなるYouTubeチャンネルを開設します。以下のような動画を掲載予定です。

◇単協イベント動画

支部やブロック、単協でのイベントを3分程度の動画にして公式YouTubeチャンネルに掲載することでオンライン上でもサステイナブルフェス！の盛り上げを発信します。動画撮

影にあたり撮影マニュアルを配信予定です。イベントを実施する際は動画化も検討しましょう！

◇インフルエンサーのライブ配信

2020年度に続き、視聴者とコミュニケーションをとれるオンラインコンテンツを配信します。生活クラブのあるサステイナブルで素敵な暮らしをインフルエンサーが視聴者に紹介します。過去配信のアーカイブも掲載します。

◇サステイナブル CLUB

SDGs への興味関心が高まっていることをうけ、関連する切り口での生活クラブのサステイナブルな活動を動画コンテンツで伝えます。活動紹介は、サステイナブルな活動を行っている識者とコラボして進める予定です。

◇創作昆虫ムシロボット企画

開発者による「ハウツー動画」を制作し、サステイナブルフェス！特設 HP と YouTube チャンネルで紹介します（2021年3月公開予定）。また、芸術大学生・彫刻家などクリエイターがつくるムシロボットを特設 HP に紹介し、そのムシロボットのネーミングを募集する「ネーミング大賞」を実施します（6/14～募集開始予定）。

<Instagram ハッシュタグキャンペーン（連合会）>

全体のテーマは2020年に引き続き「サステイナブルな暮らしのヒント」とし、#サステイナブルフェス の投稿を促すとともに、5か月間を3つの期に分け、それぞれ設けたテーマに沿ったサステイナブルな暮らしのヒントの投稿を呼びかけていきます。（予定）

【基本のハッシュタグ #サステイナブルフェス + テーマごとのハッシュタグ】

- ・第1期▶4月1日～5月31日 「食品ロス・ごみを減らすアイデア」 #もったいない
- ・第2期▶6月1日～7月18日 「お弁当作りのアイデア」 #弁当生活
- ・第3期▶7月19日～8月31日 「夏を乗り切る節電アイデア」 #省エネ

詳細資料の提供は事務局にお問い合わせください。

【4】 イベントの企画を立てるときの4つのポイント

1. 《「活動」は人に会うこと》 人に会ってちがう価値観を発見しながら自分を育て、関係性を広げることで様々な可能性を広げます。
2. 《5W1Hを明確に》 5W1H（いつ、どこで、誰が、何を、何のために、どのように）を明確にしてすすめます。
3. 《いろいろな意見がでた時は》 改めて「加入の動機」を確認し、活動の目的と、私たちのもっている力をどのように利用していくか、考えてみます。
4. 《活動後は評価して》 報告のポイントは①いつ・どこ（機関組織）で決めたことなのか②何人が参加しどんな様子だったか③目的に対しての成果④問題点や発見したことなどです。お互いの評価により、認識が変わる機会です。

【5】 イベント保険の活用

活動中の「万が一」に備えて、イベント保険を掛けましょう。

イベントや会議の前日までに申し込みましょう。家を出てから帰るまでが保障されます。

参加者名簿に記載された方が対象となります。イベントや会議では名簿を用意しましょう。

託児を設ける場合、サポーターと子どもの記入も忘れずに（サポーターはエコロとイベント保険の双方から保障されます）。

関連書式 11 | 申請方法など詳細は資料編 13 をご覧ください。

【6】 仲間づくりの活動ツール

（1）新規加入者対応

① 新規加入者との接点を作りましょう。～キーワードは「会って話す」

せっかく組合員になった人が、生活クラブを十分に利用・理解しないままに脱退してしまうのはもったいない話です。

加入してから最初の2～3か月間が大事です。

早い時期に新規加入の方との接点（支部紹介のお手紙、電話連絡、試食会への招待等）を持って、顔が見えるつながりを築きましょう。

② 新規加入者対応にかかる経費には全体からの補助があります。

関連書式 12 | おすすめ方、補助については資料編 14 をご覧ください。

（2）生産者コラボ企画（拡大を目的にした生産者交流会）

まだ消費材をよく知らない「新規加入者」や生活クラブを知らない「組合員でない方」向けの交流会です。消費材と市販品の違いについて生産者から直に聞いたり、生産者ごとのお楽しみ企画を交えて楽しく学ぶことができます。

新規加入者の方がお友だちを誘って参加してくれることで、一人で行きづらいイベントにも参加出来、仲間づくりがすすむ可能性も生まれます。

※加入獲得という目的から、オンライン化は現時点では困難なことから、当面の間は対面での実施となります。（21年4月）

生産者の情報、開催の詳細は資料編 15 をご覧ください。

（3）食と環境力レッジ

「持続可能な社会」を実現し「未来を創る活動」を目指し、組合員内外のだれもが参加して学べる機会を設けています。SDGs を実践し、環境保全を意識した選択をする人を増やします。

主に本部で開催しますが、それを参考に各支部・ブロックでの開催も検討しましょう。支部運営委員には交通費が全体から補助されます。

（4）紹介活動

あなたのお友だち・お知り合いへ「生活クラブ」「消費材の魅力」を伝えてください。

興味を持ってくれた方がいたらセンター事務局へ連絡するか、生活クラブ埼玉もしくは連合会 WEB サイト（どちらもホームページの「組合員メニュー」⇒「お友達紹介」から）、また、注文カタログなどの配布物に不定期に掲載される紹介用紙も利用できます。事務局から直接説明をする形での紹介もできます。紹介フォームを使えば、相手の住所等が分からなくても LINE・メールで紹介できます。

★ブロックごとにお誘いキャンペーンやサンプルなどを用意しています。

(5) 法人向け食材配送サービス

県内の保育園、子ども園、障害者施設、助産院などの教育・福祉・医療施設は、法人として生活クラブ埼玉に登録することができます。利用料金の 5%還元等の特典や食育活動の支援メニューを用意し、消費材の利用を後押しします。若いお母さんたちの利用にもつながります。

素性確かで安心の食に興味を持つ施設がありましたら、施設の情報をものであれば、職員が対応します。

(6) 拡大チラシ・拡大サンプル

問い合わせはがき付きのカラー印刷チラシ。ポスティングしたり、手渡ししながら生活クラブをアピールします。ミニサンプルや無料サンプルを組合員外の人に試してもらえます。

(品目はセンター事務局にご確認下さい)。



(7) 展示説明会、イベント出展

地域に出向き、消費材の展示や試飲・試食品を用意し、生活クラブをアピールします。消費材を直接手にしたり、試食することで、加入につながる機会を作りだします。試食がなくても、キャラバンカー（展示説明車）があることで目を引き、仲間づくりにつながります。キャラバンカーのラッピングが 20 年度リニューアル！

また、ビオサが実験ツールなども使えます。

イベントマニュアルについては資料編 16 をご覧ください。



<キャラバンカー>

(8) アルバムカフェ

大切な写真を楽しく可愛くデコレートします。

組合員でない方も参加できる、茶菓を囲みながらコミュニケーションの輪を広げるツールです。

関連書式 13 開催詳細については資料編 17 をご覧ください。

(9) 学習会（埼玉県出前講座、大人の学校ほか）

埼玉県が行っている出前講座は講師料が無料です。インターネットなどで調べ、直接申込んでください。大人の学校も実施の相談にのってくれます。

学びたいことを学ぶ場を、自分たちでつくりましょう。

6. 情報の共有

機関紙やチラシ等を利用して、情報の共有をすすめましょう。

【1】生活クラブの情報媒体・ツール 関連書式 14 資料編 18~20 をご覧ください。

(1) 支部（地区）の機関紙

活動を推進するためには、情報の共有が必要です。広報担当を決め、機関紙を作成します。支部（地区）運営委員会が発行責任者です。支部運営委員会で内容を確認・承認し、事務局に印刷を依頼します。組合員に対して配達便で配布します。

作成のポイント：作成者も読み手も同じ組合員です。お互い、同じ組織の一員であることを意識しましょう。

必須項目：機関紙名・発行年月日・発行 No.・支部（地区）名・センター名

(2) 支部（地区）のニュース・チラシ

必要に応じて内外に向けニュース・チラシを作成します。支部運営委員会で内容を確認・承認し、事務局に印刷を依頼します。組合員に対しては配達便で配布します。未加入者にもお知らせする場合は、自分たちで近隣の住宅にポスティングしたり、業者に依頼することもできます。

作成のポイント：イベント開催日の3か月前くらいから準備しましょう。

申込書欄にはイベント名称・センター担当者名を入れましょう。回収時の紛失防止のため、切り取り部分はA4サイズの4分の1以上のサイズを確保しましょう。切り取り部分の裏面には、地図など必要な情報が来ないように気を付けましょう。

必須項目：発行元（支部・地区・専門委員会など）・発行年月日・申し込み〆切日・託児の有無・問い合わせ先

(3) ブロックの機関紙・ニュース・チラシ

委員会の機関紙など。配布についてブロック会議の承認が必要です。ブロック企画会議（ブロック会議の準備会議）までに原稿を揃えましょう。

(4) ブロック版メールマガジン・埼玉HPイベント情報掲載

原稿〆切日は支部運営委員会資料に掲載されます。ブロック会議で掲載承認を受けた後、本部へ送ります。（事後承認でも可）

HP イベント情報掲載は、埼玉HP トップのイベント情報欄に掲載されます。積極的に依頼して活用しましょう。メールマガジンは多くの新規組合員へ配信されています。運営委員はメルマガに登録して、新規の方にもどのような情報が発信されているのかを知るようにしましょう。

(5) 埼玉単協の機関紙

埼玉単協独自で作成し、組合員1人に1部ずつ配布している定期的な発行物が3種あります。

単協機関紙『スピカ』 COMEON かもん 埼玉カタログ

(6) 埼玉単協のWeb情報媒体

Facebook グループ「生活クラブ埼玉組合員サイト」

組合員活動共有ツールとして、Facebook「グループ機能」を活用します。

クローズドグループ（非公開）で、生活クラブの活動に関することを気軽に情報交換、共有していきましょう。

メンバー対象者：支部運営委員・専門委員・連代表者・ブロック役員・理事

メンバーのみが投稿閲覧できます。実名投稿、所属を明記。

生活クラブ埼玉公式 Facebook（フェイスブック）

生活クラブ埼玉公式 インスタグラム

詳細は資料編 19 をご覧ください。

(7) 連合会の情報媒体

ホームページ

コミュニティサイト「ピオサポレシピ」

Facebook Twitter Instagram

Youtube チャンネル

(8) 自治体の後援

人が集まるイベントを企画したら自治体の後援をとりましょう。自治体の窓口またはホームページから申請書を入手します。後援をとると、公立・公共の施設にチラシを配布してもらいやすくなります。

後援をもらうのに、一か月くらい余裕を持ちましょう。

(9) 自治体広報紙での広報

自治体広報紙のイベント情報コーナーや広告に掲載してもらえるかも聞いてみましょう。

(10) プレスリリース

報道機関に向けて情報を公式に発信する、およびその文書のことをプレスリリースといいます。新聞社へのプレスリリースは記者クラブに持ち込み、又はFAX送付します。また、電子媒体へのプレスリリース配信・掲載サービスのPRTIMESを利用することもできます（指定の書式で本部組織部へメール送信）。
詳細は資料編 20 をご覧ください。

(11) ロゴやイラスト集

生活クラブのロゴマークや消費材の写真、独自キャラクターのイラストを連合HP、埼玉HPからコピーして機関紙やチラシに使うことができます。

使用・掲載ルールがあるロゴやイラストは、ブロック事務局を通じて受け取り、確認後掲載しましょう。



【2】ソーシャルメディア利用についての留意点

オンライン活動が増え、組合員や支部などの SNS 活用、ブログ、HP など、オンラインのコミュニケーションがすすんでいます。WEB は一度発信されると全世界に配信され、削除ができない場合があります。また、一人ひとり受け止め方にも違いがあります。

あなたの発信が生活クラブからの発信となる事もあり、生活クラブに関する情報については、公開可能な情報化などを考え、文章作成は丁寧に行いましょう。写真や動画は、映る方に確認や許可を取るなど、丁寧に公開してください。

WEB、SNS などを活用する場合は、必ずソーシャルメディア・ガイドラインを一読しましょう。

留意点についての詳細は資料編 21 をご覧ください。

※生活クラブ・ソーシャルメディア・ガイドライン、運用ポリシーはホームページでも公開しています。

1. 共同購入（利用結集）活動

【1】生活クラブの共同購入（利用結集）活動

生活クラブでは、取り扱う食品や生活用品を利潤追求が目的の「商品」ではなく、実際に使う人の立場にたった材であるという思いを込めて「消費材」と呼んでいます。消費材を通じて、生活の中にある課題の解決をめざしています。

自分たちの生活に必要な「消費材」を生産者と共につくり、共にひろげる運動が共同購入活動です。消費者には「買う力」と「買わない力」があります。買わないことで社会に「NO」と意思表示をするとともに、必要とする消費材に購買力を集めることで、一つひとつ課題を解決し、生産者と共に持続可能な生産と消費のしくみを作りだしています。

「eくらぶやOCRで申し込む」「デポで購入する」ことが共同購入活動の第一歩です。そして、材の背景にある社会的な課題を知り、わかって食べる人を増やしていくことで、持続可能な社会を目指しています。

【2】生産原価保障方式

商品の価格は生産の事情はあまり考慮されることなく、市場の相場に左右され、生産コストを下げるために原料の質を落としたり、代わりに化学物質や農薬に頼るといったことが起こりがちです。一方、生活クラブの消費材は生産に必要な原価を保障し、配送など最低限の必要経費を加えて価格を決める『生産原価保障方式』を取っています。これは組合員にとっては質の良い物が適正な価格で手に入り、生産者にとっては市場の競争原理に左右されず、生産が保障される画期的なシステムです。

私たちが食べ続けることで次の生産を支え、生産と消費の健全な関係をめざしています。

【3】予約（食べる約束）をすることの意義

共同購入には「班配送」「個別配送」「デポ（店舗）」の購入形態がありますが、いずれも組合員が予約をして共同購入していることが重要です。

計画的な生産に対し、責任を持って消費することが大切です。米は1年、牛肉を生産するには3年の年月が必要です。また、卵は毎日生まれ、牛乳は毎日搾られます。持続可能な生産と消費を維持するためには、予約（食べる約束）をして、利用を続けることが重要です。

【4】生活クラブの消費材 10 原則

私たち、生活クラブと生産者は、共に対等な立場で消費材を開発し、その共同購入を通じて「健康で安心して暮らせる社会」の実現をめざします。

消費とは生命が生まれて死ぬまでの過程そのものであり、何をつくり出し、選び、利用するかという私たちの行動によって未来の命と環境のあり方が決まります。

だからこそ私たちは、原材料の調達から生産、流通、消費、廃棄に至るすべての過程で安全・健康・環境を最大限に尊重し、ここに「生活クラブの消費材 10 原則」を定めます。そして、関わるすべての人が主体的に参加する制度の下に、継続的に目に見える形でこの原則を追求します。

- 1: 安全性を追求します
- 2: 遺伝子操作された原材料は受け入れません
- 3: 国内の自給力を高めます
- 4: 公正で責任ある原材料の調達をめざします
- 5: 素材本来の味を大切にします
- 6: 有害化学物質を削減します
- 7: 3R を推進し、さらなる資源循環をすすめます
- 8: 温室効果ガスの排出削減をすすめます
- 9: 積極的に情報を開示します
- 10: 独自基準を定め、自主的な管理をすすめます

詳細については資料編 22 をご覧ください。

【5】「自主基準」

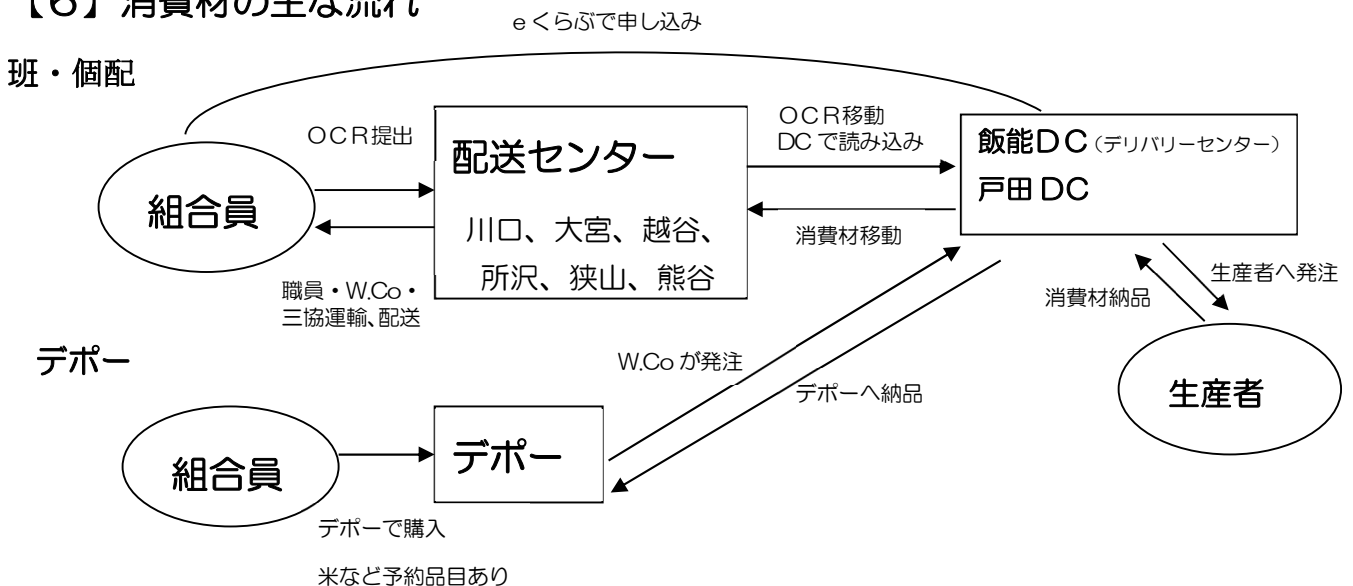
「生活クラブの消費材 10 原則」に基づき、組合員と生産者の代表が討議し、分野別に具体的に定めたものが「自主基準」です。

「消費材 Step Up 点検」とは、消費材の製造環境や製造工程を確認して、生活クラブの「自主基準」への達成度を確認する活動です。

「消費材 Step Up 点検」を通して、生産者と組合員が共に消費材をより良くしていく仕組みが「持続可能な生産と消費」推進制度です。

消費材は完成形ではありません。私たち組合員が活動することによって、より良くしていくことができます。

【6】消費材の主な流れ



【7】共同購入活動の用語

「ビジョンフード」 生活クラブでは米・牛乳・鶏卵・畜肉・青果物を「ビジョンフード」と呼びます。国内自給力の向上や生態系を守り、食の安全性を追求し、次世代の子どもたちが安心して健康的に暮らしていく社会を目指す「ビジョン（展望）」をもって利用する消費材です。

「よやくらぶ」 登録した消費材が定期的に自動で届く「予約注文システム」です。

「ビジョンフードよやくらぶ」 米・牛乳・鶏卵を通年予約し安定生産と持続性を実現します。

「安心よやくらぶ」 日常的に利用する機会の多い消費材の注文をサポートする仕組みです。

「L's(エルズ)選定品」 生活（Life）を生き生きとした（Lively）ものにする消費材を使いこなそう（Lesson）という意味が込められています。多くの組合員が利用する基礎材です。

「アースメイド野菜」 生活クラブの農産物は、国内の自給力向上を目指し、減農薬・減化学肥料、環境への配慮、鮮度対策を強化し、提携産地と連携して取り組んでいます。2016年11月より生活クラブの野菜を全て「アースメイド野菜」としてブランド化しました。

「あっぱれ育ち」 栽培期間中、化学合成農薬と化学肥料を使わないで育てた野菜。

「はればれ育ち」 栽培期間中、化学合成農薬と化学肥料をできる限り減らして育てた野菜。

「たぐいまれ」 特徴的な味の品種、地域で昔から栽培している品種。

2. 共同購入（利用結集）活動の組み立て方とツール

【1】消費委員会の活動

生活クラブは、1965年（昭和40年）世田谷に住む一人の主婦の呼びかけで、牛乳300本を200人で購入することから始まりました。1972年山形県平田牧場との無添加ウィナーの取り組みから、豚肉の提携が始まり、組合員がトラックに同乗して配達先の班を案内して回ったり、平田牧場の豚肉の良さや、ブロック肉の扱い方などを組合員に説明したのが“豚肉部会”です。これが“消費委員会”の元となりました。

消費委員会が目指すことは、生産と消費の背景にある問題を理解し、F（food）の自給圏を作ることです。

そして、消費材の価値を「わかって食べる人」を増やすために、試食会や生産者交流会などの利用結集ツールを使って推進していきます。

【2】共同購入（利用結集）活動の組み立て方

基本的には地区・支部・ブロック大会で決定したテーマに沿って、「わかって食べる人」を増やすために、ツールなどを使って利用結集を行います。また、活動の中から関心の高まった消費材についても、同様に利用結集を進めます。

- ・どのような目的で、誰に、何を伝えたいかを明確にして企画しましょう。
- ・開催に向けた手順を考え、ゆとりを持って実行しましょう。

- ・書式は、生活クラブ埼玉 HP から トップページ⇒右上【組合員メニュー】⇒活動ツール⇒活動ハンドブック【書式編】からダウンロード。または事務局に依頼してください。

★組み立て方の例 1 試食会・料理講習会

手順	詳細	時期
試食会、料理講習会のテーマを決める	支部、地区大会で決めた活動テーマ品目、その他。	3ヶ月前
開催日時、会場の確定 参加費の検討	開催日時、会場の確定をする。託児をつけるなら調理室以外に託児の会場を確保する。	2ヶ月前
試食品・料理の確定、(講師の依頼)	時間配分を考えて、準備、調理、試食が終わるように組み立てる。	2ヶ月前
参加呼びかけ (チラシの作成、配布の確認)	会場の定員を確認し、抽選になった場合の対応を明記する。託児の締切は実施日の2週間前、通常の締切は1週間前くらいを目安に設定する。	1ヶ月前
エコロコーディネーターに託児依頼	託児つきの場合、託児担当者はエコロコーディネーターに依頼する。⇒エコロガイドブック参照	1ヶ月～2週間前
消費材の発注	支部 OCR、個人 OCR で、使用する消費材を発注する。取組みが少ないものは早めに注文。	1ヶ月～ 1週間前
参加締切	参加人数が確定したら、名簿の作成(事務局依頼)。	2～1週間前
当日のレジュメ、レシピ、アンケート作成	当日の時間配分を決めて、レジュメ、レシピを作成。質問したい内容を決めてアンケートを作成。	2～1週間前
イベント保険の申請	参加予定人数、スタッフ、託児の子ども、託児者、講師など全ての人数で提出(本部)。	1週間前～前日
当日の進行(進行役を決める)	レジュメに沿って進行。食材の準備や下ごしらえなど必要に応じて準備する。	当日
イベント保険の報告	実際の参加人数を記載し、提出(本部)。	1週間以内
利用促進活動	試食会・料理講習会の報告をニュースや機関紙で発信。組合員が集まる場所での報告。	実施後1ヶ月～

★組み立て方の例2 生産者交流会

手順	詳細	時期
生産者を決める	支部、地区の活動テーマ消費材の生産者。	3ヶ月前
生産者受け入れ条件を調べる	事務局に確認。	2ヶ月前
希望日時を決める	希望日時は、第3希望日まで決める。	2ヶ月前
会場の確定	希望日時に合った会場を確定する。	2ヶ月前
目標を決める（イベント計画シートの活用 関連書式 20 ）	目的を明確にする（利用結集・消費材の理解）。目標値の設定は現状を知ることから始める。	40日前
申込書作成・提出 関連書式 21	所定の書式に必要事項を記入して申請する。日程調整に時間がかかることもあるので、余裕をもって申請する。	40日前
実施日決定 申請から10日後を目安に回答あり	実施が決まったら、生産者との事前連絡・打合せ。生産者との連絡は原則、事務局が行う（場合によっては主催組織の代表が行うことも可）。	1ヶ月前
参加呼びかけ （チラシの作成、配布の確認）	会場の定員を確認し、抽選になった場合の対応を明記する。託児の締切は実施日の2週間前、通常の締切は1週間前くらいを目安に設定。	1ヶ月前
市場調査・食べ比べ	消費材の市場との比較、市販品との食べ比べなど。	1ヶ月前
エコロコーディネーターに託児依頼	託児つきの場合、託児担当者はエコロコーディネーターに依頼する。⇒エコログайдブック参照	1ヶ月～ 2週間前
消費材発注	支部OCR、個人OCRで、交流会に使う消費材を発注する。取組みが少ないものは早めに注文。	1ヶ月～1週間前
参加締切	参加人数が確定したら、名簿の作成（事務局依頼）。	2～1週間前
当日のレジュメ、アンケート作成	当日の生産者の話の時間、市場調査の報告など交流会にかかる時間配分を決めて、レジュメを作成。質問したい内容を決めてアンケートの作成。	2～1週間前
イベント保険の申請	参加予定人数、スタッフ、託児の子ども、託児者、講師など全ての人数で提出（本部）。	1週間前～前日
当日の進行（進行役を決める） レジュメに沿って進行する	生産者と事前打ち合わせが可能なら事前に実施。当日、始まる前に交流会の流れを確認。	当日
報告書作成・提出 関連書式 21 イベント保険の報告	・実施結果報告書の作成・提出。アンケートがあれば添付。広報チラシは後日送付する（事務局）。 ・イベント保険の報告。実際の参加人数を記載し、提出（本部）。	実施後1週間以内
利用促進活動	交流会報告をニュースや機関紙で発信。組合員が集まる場所での報告。	実施後1ヶ月～

【3】利用結集のツール

(1) 試食会・料理講習会など

①試食会・料理講習会

- ・消費材のおいしさと価値を伝える企画です。
- ・開催目的、参加対象などによって試食品や料理を決めます。
- ・講師を依頼する場合は、大人の学校などの講座も利用できます。資料編 11 参照
- ・食中毒に注意して調理しましょう。

※試食会・料理講習会にかかる消費材代、会場費、備品等は、主催者が負担します。

詳細は資料編 24「食肉類の食中毒予防マニュアル(ダイジェスト)」をご覧ください。

※★組み立て方の例1 参照

②年末年始特別企画共同購入活動（クリスマス正月用消費材試食会）

- ・年末年始の商品需要に一般市場では、早い時期から添加物を多用した商品をたくさん作り置きしています。また、市場は年末に向けて価格が高くなる傾向があります。

生活クラブでは、早い時期に予約することで、生産者は必要な原材料を確保し、必要な量を作ることができます。無駄な在庫を抱えることもありません。食べる人、食べる量がわかるからこそ、添加物を使わず、手間をかけ丁寧に作ることができます。生活クラブでは通常通り、持続可能な生産のための適正価格で購入できます。

- ・特に、店舗型共同購入のデポの組合員にとっては、予約して共同購入することを体験できる大切な機会です。フロアの混乱、欠品・過剰在庫をなくすと同時に、予約することで確実に手に入れることができます。

※年末年始特別企画の有償サンプルは10月末～11月初めに利用できます。申込は9月中旬にあります。公表から締切までの期間が短いので注意が必要です。

※試食会・料理講習会にかかる消費材代、会場費、備品等は、主催者が負担します。

※★組み立て方の例1 参照

(2) 生産者に来てもらう企画

①生産者交流会

- ・地区、支部、ブロック主催で、生産者を招き、おおぜいで話を聞くことができます。
- ・消費材や生産者についての理解を深め、利用する仲間を増やすための企画です。

※開催40日前までに生産者交流会申請書（書式21）、イベント計画シート（書式20）を事務局に提出します。

※生産者に対して「消費材の規格情報」「市場動向・業界情報」「安全性に関する情報」「提携の歴史」等、事前資料を要請することができます。

※交流会にかかる消費材代（共同購入注文で用意するか生産者からの買取りか確認）、会場費、備品等は、主催者が負担します。

★組み立て方の例2 参照

②「大試食会（生産者 10 団体以上）」、「まつり」

「大試食会」は組合員にとって、消費材をより深く知る機会です。「まつり」は広く一般市民へ参加を呼びかけ、地域に生活クラブをアピールすることを主な目的とします。開催については、前年度の 1 月末までに申請が必要です。詳細は事務局にお問い合わせください。

③新・おしゃべりキッチン

・地区、支部、ブロック主催で、予め設定されたタイトルに基づいて、選択した 3 生産者が消費材の説明を順番に行う複数生産者交流会企画です。

・3 生産者の話を各 30 分、試食交流などを含め全体で 2 時間半～3 時間で設定の企画です。

※開催 70 日前までに生産者交流会申請書（書式 21）を事務局に提出し、開催 1 か月前までに 3 生産者の参加を確認します。

詳細は資料編 25「新・おしゃべりキッチン開催の手引き」をご覧ください。

④食肉学習会（豚肉、牛肉、鶏肉）

・地区、支部、ブロック主催で豚肉、牛肉、鶏肉の生産者を招き、実際に枝肉（豚肉は一頭の半身分のパーツ肉、牛肉はロースステーキ、鶏肉は丸体など）の解体を見ながら、1 頭（羽）買いの部位バランスによる取組みの理解、生産や流通・市販品との違いを学習できます。

・学習会に使用するサンプル肉代金は主催者負担（費用目安：豚 26,000 円、牛 16,200～17,600 円鶏 3,300 円）です。

・2 月ごろ連合会で開催希望を集約し、調整の上 4 月ごろ連合消費委員会で日程が確定します。（希望しても、開催できない場合もあります。）前年度に申し込む必要があるため、新旧で協力して開催しましょう。

・開催にあたっては、参加対象と目標を明確にし、開催条件を良く確認して進めましょう。参加者数の目標は豚肉 1 会場 50 人以上、牛肉・鶏肉 1 会場 30 人以上が条件です。

・試食が伴うことを踏まえ、会場、開催時間を考えます。

※サンプル肉以外の試食用肉等、消費材試食品は主催者が準備します。会場費について補助はありません。

※開催 40 日前までに食肉学習会企画書を事務局に提出します。

※企画書・報告書・学習会資料については、事務局に問い合わせてください。

⑤豚加工肉学習会（平牧工房との生産者交流会）

例年、開催希望が多く、生産者が調整に苦慮する為、食肉学習会と同様、前年度 2 月ごろ、開催希望を集約します。開催日程決定後の進め方やルールについては通常の生産者交流会に準じます。

⑥米消費地交流会

- ・地区、支部、ブロック主催で米の生産者「遊佐」「加美よつば」を招き、米の生産現場、環境問題への理解を深め、組合員の利用、食べる仲間を増やすための企画です。作り手と食べる側が意見交換を行う、貴重な企画です。
- ・2月ごろ連合会で開催希望を集約し、4月ごろ日程が決定します。(実施は6~7月)
- ・なるべく、おおぜいの参加者(50名目安)を募ります。
- ・交流会開催費用は1開催50,000円ですが、全体で補助をします。
*交流会にかかる試食消費材代、会場費、備品は主催者負担。
- ・日程が確定したら米消費地交流会企画書を作成し、開催2か月前までに事務局に提出。
- ・交流会後、1か月以内に米消費地交流会報告書を提出します。(書式は事務局に依頼)

⑦甘夏みかん消費地交流会

- ・地区、支部、ブロック主催で甘夏の生産者グループ「きばる」を招き、甘夏の生産現場、環境問題への理解を深め、組合員の利用、食べる仲間を増やすための企画です。作り手と食べる側が意見交換を行う、貴重な企画です。
- ・8月ごろ連合会で開催希望を集約し(ブロック1開催まで)、10月ごろ日程が決定します(実施は1月)。
- ・参加者数の目標は1会場30人以上が条件です。
- ・交流会開催費用1会場6,000円程度の主催者負担があります。会場費等について補助はありません。
- ・日程が確定したら甘夏みかん消費地交流会企画書を作成し、開催40日前までに事務局に提出。
- ・交流会後、1か月以内に甘夏みかん消費地交流会報告書を提出します。(書式は事務局に依頼)

⑧生産者コラボ企画(拡大を目的にした生産者交流会) ⇒ 組織活動 P.22 参照

(3) 生産現場に行く企画

①生産者見学会

- ・地区、支部、ブロック主催で生産地へ出向き、直接生産方法を確認して、話しを聞けます。
 - ・消費材や生産者について理解を深め「わかって食べる人を増やす」ための独自性の高い貴重な企画です。
 - ・安全上の理由で組合員外や子どもの参加が制限される場合もあります。生産者ごとの開催条件(事務局に依頼)を良く確認して進めましょう。
 - ・事前学習会開催など、充実した見学会になるよう工夫しましょう。
 - ・当日の交通手段、集合場所、連絡先を参加者に連絡しておきましょう。昼食などをとる場合は見学時間に合わせて、食事のできる場所を確保しておきましょう。
- ※開催40日前までに生産者交流会申請書(書式21)、イベント計画シート(書式20)を事務局に提出します。
- ※生産者に対して、「消費材の規格情報」「市場動向・業界情報」「市販品との比較情報」「安全性に関する情報」「提携の歴史」等、事前資料を要請することができます。

②消費材 Step Up 点検

- ・「消費材 Step Up 点検」は、生産者見学会の発展的活動で、地区、支部、ブロック主催で企画実施できます。1 企画につき 1 生産者 1 品目の実施です。
- ・「生活クラブの消費材 10 原則」に賛同する提携生産者と組合員がともに消費材のレベルアップを目指すものです。生産者・組合員双方で、生産の点検・確認を行ない、不備についてはその場で指摘し、生産者は改善対応します。組合員は生産者努力を評価し、知り得た情報を利用結集活動に役立てます。
- ・「生活クラブの消費材 10 原則」を批准している生産者の、消費材登録済みの品目が対象です。生産者・品目の登録がない場合は、批准・登録を生産者に依頼してから実施できます。
- ・組合員外、子どもは参加できません。
- ・事前学習会を原則 2 回行います。

※実施 3～4 ヶ月前までに消費材 StepUp 点検申請書（書式 21）を事務局に提出します。

※実施後 2 ヶ月以内に「現地点検確認書」、「消費材 Step Up 点検報告書」を提出します。

詳細は「消費材 Step Up 点検実践マニュアル」（事務局へ依頼）をご覧ください。

（4）講座・学習会・講演会

①食育講座

- ・食の大切さを伝え、健康な食生活を提案する、食育推進スタッフ（愛称：mint）による体験型の食育講座です。今年度は講座数を絞り対面型とオンラインによる講座を整えました。
- ・地区・支部・ブロックで開催することができます。回数の制限なく、講師料はかかりません。
- ・法人利用を登録している保育園、幼稚園、学校などでは、無料で開催できます。未登録法人では講師料 5000 円と講師交通費が必要です。

2021 年度、未登録法人子育て施設でも食育講座が無料で開催できます。

埼玉県内未登録子育て施設の職員・栄養士向けに、食育講座を無料で 1 回開催することができます。

講座名：わたしを高める 食選力講座 step.1

講座を開催する場合は、食育講座申込書（書式 23）を事務局に提出、もしくは本部に FAX で送信下さい。日程に余裕をもって、複数の希望日を記入して提出してください。詳細は関連書式 23

●紹介したい施設に組合員が届けます 「生活クラブの食育講座お知らせセット」

お子さんが通っている学校や幼稚園・保育園・学童に、生活クラブの「食育講座」や「法人向け食材配送サービス」のお知らせを届けましょう。お申込みは、生活クラブホームページより簡単にできます。生活クラブ食育講座のご案内➡「食育講座お知らせセットお申込み」に記入してください。確認後、①お手紙と申込み書式 ②食育パンフ（食育講座・法人向け食材配送サービス）③生活クラブデータブック 2020 のセットをご自宅に配達便で届けます。また、一緒に説明にも伺えますので、ぜひ活用下さい。

②ピオサボ基礎講座/ピオサポーター養成講座等

- ・地区、支部、ブロック主催で、健康的な食べ方を学ぶ学習会を実施できます。

- ・講師料はかかりません。
- ・「**バイオサポ基礎講座**」(90分程度)、「**基礎講座**」開催後(同時開催可)の追加メニューとして以下の講座開催が可能です。
「**バイオサポ講座ビジョンフード編 <米><牛乳><鶏肉><豚肉><牛肉><鶏卵>**」
「**献立作成ワークショップ**」「**バイオサポラボ(活動ツールの実演)**」「**子育て支援講座**」
「**アクティブシニア講座**」
- ・「**バイオサポーター養成講座**」は、「**基礎講座**」に参加した組合員を対象とし、拡大や利用結集活動を進めるにあたって、健康と栄養面の観点から献立へのアドバイス(献立相談)を行うことができる組合員(バイオサポーター)を育成するための講座として開設します。
- ・単協独自で**バイオサポ活動ツール**として3種類の実験キット(ジュースの着色料・ソーセージの発色剤・だしについて)があります。(事務局へ依頼)

※開催40日前までに**バイオサポ基礎講座・養成講座申込書(書式24)**を事務局に提出します。

関連書式 24

③講演会、上映会

- ・地域の人に食の安全を学ぶ機会を作るために著名人を講師に迎えて『**添加物についての講演会**』などを開催することもできます。
- ・NPO法人大人の学校のコーディネーターも利用できます。

(5) 展示即売会・内覧会

- ・『**きて・見て・ふれて・確かめて**』をコンセプトに、本企画・ミニ企画(ブロック主催)、相談販売会・学習会(ブロック・支部主催)、見学会(ブロック主催、実行委員対象)の区分で企画します。
- ・カリモク家具ショールーム、東京真珠、パラマウントは内覧会があります。
- ・本企画、ミニ企画、相談販売会では、前日や当日の準備・販売・片付けに関わるスタッフに対し、1時間あたり800円の手当、交通費、昼食代を補助します。
- ・実行委員に対し、開催までの会議にかかる通信費、交通費、昼食代を補助します。

関連書式 25

詳細は資料編27「**展示即売会マニュアル**」をご覧ください。

(6) 消費材開発改善要望

- ・消費材は、今ある形が完成品ではなく、その時々最良の形です。今ある消費材に対して、組合員アンケートや市場調査を重ね、意見をまとめ、私たちの欲しいものに変えていく要望を、連合会に提出することができます。また、現在取り組みのないものも、組合員アンケートや市場調査を重ね、意見をまとめることで要望を提出することができます。
- ・組合員の消費や利用状況を調査したり、一般商品の表示、価格、売られ方、CM等をチェックします。
- ・調査したことは整理し問題点をまとめます。
- ・消費材の開発視点や経過、現在の到達点・利用率等について調べます。

- ・消費材が変わる、または新規に取り組む事で利用が上がることを明確にし、意見をまとめます。

関連書式 26

資料編 28 「消費材事故・クレーム対応比較表」

★消費材意見要望の手順

- ①個人の意見
- ②地区の意見
- ③支部の意見
- ④ブロック消費委員会集約
- ⑤共同購入政策委員会（ 受付 6月、10月、2月 ）
- ⑥連合消費委員会で検討・改善 受付 7月、11月、3月 ）
- ⑦受付月の翌月に意見要望に対する連合の見解を確認

※緊急を要する意見要望は受付月以外の提出も可能

1. サステイナブル活動

【1】生活クラブのサステイナブル活動

私たちの活動の礎となっているのは、「平和と民主主義」がある社会です。命を脅かされない平和、一人一人の意見が尊重される民主主義の社会を目指して「未来を創る活動」に取り組みます。

「持続可能な社会」の実現が「未来を創る活動」へとつながります。SDGsを実践し、環境保全を意識した選択をする人を増やします。

【2】生活クラブのエネルギー7原則

わたしたちは、人類の共通資産である化石資源を大量に消費することで、産業革命以前の人々とは比べようのないほど膨大なエネルギーを獲得し、いまの豊かな暮らしを実現しています。

このような暮らしは持続可能（＝サステイナブル）ではありません。3.11は、これらのことに改めて気づかせてくれました。わたしたちは、限りある資源を未来の子どもたちと分かち合わなければなりません。そして、“もったいない”という気持ちを大切に作る暮らし、“足るを知る”という節度ある暮らしに立ち返りたいと思います。

生活クラブは、省エネルギーをすすめながら再生可能な自然エネルギーによる電気の普及に取り組み、一日でも早く原発に依存しなくてよい社会を構築することを決意して、ここに「生活クラブのエネルギー7原則」を定めます。

- 1：省エネルギーを柱とします。
- 2：原発のない社会、CO₂を減らせる社会をつくります。
- 3：地域への貢献と自然環境に留意した発電事業をすすめます。
- 4：電気の価格や送配電のしくみを明らかにします。
- 5：生活クラブの提携産地との連携を深め、エネルギー自給率を高めます。
- 6：エシカルコンシューマーとして、再生可能エネルギーによる電気を積極的に共同購入します。
- 7：生産から廃棄までトータルで責任を持ちます。

原則の詳細については資料編 29 をご覧ください。

【3】サステイナブル活動の組み立てとツール

(1) ストップ遺伝子組み換え (NON-GM) 運動

ストップ遺伝子組み換え運動を継続するとともに、新たな遺伝子操作の仕組みであるゲノム編集や主要種子法廃止など、食と農に大きな影響を及ぼすと思われる「タネ」の問題について学習し、食と環境の未来を守る活動を展開します。

※「GM」遺伝子組み換え 「GMO」遺伝子組み換え作物

① GMOフリーゾーン登録運動

農家や山主さんが自分の農地や山林に遺伝子組み換え作物を持ち込まないことを宣言する「GMフリーゾーン宣言」、農地は持たないけれど、遺伝子組み換え食品を食べたくない、遺伝子組み換え作物を栽培してほしくないと考える人の「GMOフリーゾーンサポーター宣言」を増やし、NON-GMエリアを点から面へと広げます。

関連書式 30

② GMナタネ自生調査

大量に輸入されている遺伝子組み換えナタネが、流通中にこぼれて日本の生態系で自生していないかを、全国の市民がチェックする活動です。ナタネ（アブラナ）の咲く季節にそれぞれの生活圏で検査し、情報を共有しています。

③ 大豆一粒運動

NON-GMの大豆畑を増やすために、出資者を募り出資金を集め、協力農家にNON-GM・無農薬（原則）の大豆栽培を依頼し、出資口数に応じて大豆を分配しています。環境にやさしい農業を営む農家と交流できる活動もしています。

④ 映画「遺伝子組み換えルーレット」(DVD)

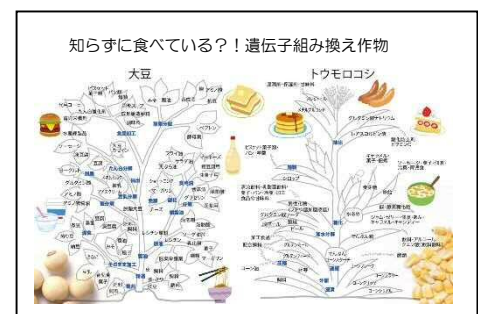
ドキュメンタリー映画（2012年）。生活クラブ連合会が製作協力したため、主催上映ができません。上映時間85分。生活クラブ埼玉および連合会が上映会用DVDを所有しています。

関連書式 31

⑤ 「GMツリーの図」

GM作物は、様々な原材料に姿を変えて私たちの生活に深く広く入り込んでいることが、一見して分かります。

データ保存されています。事務局にお問合せください。



(2) せっけん利用を入口に、環境を考える活動

人の健康や生態系に有害な恐れのある化学物質の環境への排出を減らすために、合成洗剤の使用をやめてせっけんを利用する人を増やす活動をします。

① シャボン玉月間活動

せっけん運動ネットワークの参加団体（生活クラブほか全国66の生協・NGOが参加。傘下の組合員数 約200万人）が全国で一斉に展開するキャンペーン活動。シャボン玉月間ポスターの掲示、行政訪問や学習会の開催などをします。

②冊子「せっけんで暮らそう」

マンガ仕様で語られている冊子（2017年8月改訂版）のPDFデータ版を生活クラブ埼玉のWEBサイトで見ることができます。サイト内検索「せっけんで暮らそう」



③展示用パネル「せっけん」

合成洗剤との違いなど、せっけんに関する基礎的な情報が分かりやすく表示されています。（B1版・2枚組）



④合成洗剤をやめていのちと自然を守る埼玉連絡会

活動拠点をさいたま市に置く連絡会で、生活クラブ生協の他、水・合成洗剤などの課題に関わる個人・団体（水道労働組合、エスケー石鹸株式会社など）が参加しています。

この連絡会の「ミジンコ講座（せっけんと合成洗剤、香害に関する講座／講師派遣有料）」や冊子「せっけんのススメ（500円）」を利用できます。

連絡会と県との長年にわたる話し合いの中で、県が動き自ら作った「香害ポスター」も活用できます。埼玉県が発行元なので公共施設などに張り出すこともできます。

「埼玉県 香りのエチケット」で検索してください。



(3) 自然との共存をすすめる活動

私たちが生きる上で必要な「水」を守っていくために、水源地である秩父の森についての現状を知り、保全する活動に取り組みます。秩父の森を守り次世代に引き継いでいくためのトラスト運動*の紹介、身近な里地里山を守る活動や県産材・国産材の活用と利用、水源地保全のための調査活動などを進めます。

*「**トラスト運動**」地球環境を無秩序な都市化や野放図な開発から守り、自然環境や歴史的建造物を後世に残していく市民活動（運動）

主に、サステナブル政策委員会のもと、森と水の委員会が担っています。

森と水の委員会は荒川源流域のトラスト運動をすすめたメンバーを中心に発足しました。

①森と水の出前講座

森と水の実行委員会が開催する「森と水のおはなし館」。紙芝居を用いて、私たちと森、水源地、水、川などとの連関を分かりやすく伝えます。開催費用は無料（会場費等は主催者負担）。

30～60分を目安に設定してください。

関連書式 32

②環境学習応援隊（埼玉県）

学校の環境教育に協力する民間組織の活動

森と水の実行委員会が小学校に出向き、紙芝居やクイズを通して、水や自然を大切にする暮らし方を一緒に考える出前授業を行います。(対象は小学4～6年生)

小学校が実施する際は、小学校が埼玉県環境政策課に申込む必要があります。小学校の先生に開催を提案してください。「森と水のおはなし館」は環境学習応援隊に登録されています。

(4) ごみとCO₂の削減

①3R推進活動

グリーンシステム(Rびん、P袋、カタログの袋、牛乳キャップの回収)によるCO₂削減をすすめます。

- 「3R」 リデュース(発生抑制)・リユース(再使用)・リサイクル(再利用)
- 「グリーンシステム」 地球生態系のためのごみ減量システム
(Garbage Reduction for Ecology and Earth' s Necessity) の頭文字を取っています。

•「R(リターナブル)びん」

Rびんは繰り返し使用できるびんです。

Rびんを1本使用することでCO₂が平均約250g削減されます。

回収率が90%未満の場合、再商品化費用が必要になります。

- 牛乳びんの蓋やP(ピッキング)袋等 回収後ゴミ袋などに再生しています。
- カタログ回収 自治体で回収する場合の「雑紙」ではなく、より質の高い「家庭紙」として再生されます。



詳細は連合会ホームページ「グリーンシステムビギナーズガイド」をご覧ください。

②展示用パネル「リサイクル」

B1版・2枚組、グリーンシステム、牛乳キャップ、ピッキング袋のリサイクルの工程をまとめました。



(5) 原発のない社会を目指す活動

CO₂の削減と共に、再生可能エネルギーの自給圏づくりを進め、原発に頼らない安全な社会を作ります。

エネルギーの使用を「減らす」、再生可能エネルギーを「つくる」、「使う」を柱に、「自然エネルギー」*への共感を広げ、エネルギー問題について学習する機会をつくり、「生活クラブでんき」の利用をすすめます。

*「自然エネルギー」自然の力で定常的に補充されるエネルギー資源(同義語:再生可能エネルギー)

資料編30「生活クラブでんき推進のための資料」

①電気の学習会(生活クラブエナジーおよびグリーンファンド秋田)

(株)生活クラブエナジー、または、秋田県にかほ市で生活クラブ風車「夢風」の発電事業・現地

と首都圏の組合員をつなぐ役割を担う「グリーンファンド秋田」より講師を招いて、電気について詳しく学ぶことができます。講師交通費（基本的に都内から）の実費は主催者負担です。

関連書式 33

②省エネ講座

㈱生活クラブエナジーまたはグリーンファンド秋田より講師を招き、地球温暖化や家庭での省エネ、親子参加の工作など、親しみやすい8種類の講座や省エネ個別相談を開催することができます。講師料は2時間を限度に1回10,000円と講師交通費、ゲーム、工作キットなどの実費は主催者負担です。

関連書式 33

詳細は資料編 31「省エネ講座メニュー」をご覧ください。

③自然エネルギー基金助成

生活クラブでんきを契約する際に「寄付金つきメニュー」を任意でプラスすることができます。寄付金つきメニューを選択すると、毎月の電気料金の5%分を「生活クラブ自然エネルギー基金 for 5%」に寄付することになります。基金は、再生可能エネルギーや省エネルギーを推進するための資金として活用されます。

この基金からの助成金を利用して、エネルギーに関する講演会や上映会・イベントを支部・ブロックで開催することができます。

埼玉全体で上限10万円。対象期間は2021年4月1日から2022年2月末日まで。

上期のメ切は1/21、下期のメ切は7/7となります。

申請書・報告書提出。審査があります。詳細は事務局にお問合せください。

④生活クラブでんきの生産者（発電所）交流会、見学会

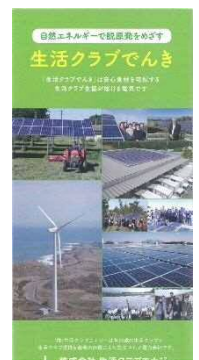
グリーンファンド秋田（風車夢風）、会津電力、飯館電力、その他各地の生活クラブでんきの発電所となっている市民電力との交流会・見学会を企画することができます。

関連書式 33

⑤関連資料

- でんき Life Book 生活クラブでんきを使った生活提案
- 三つ折りリーフレット 生活クラブでんきの紹介
- 「電気の共同購入」スライド、寸劇（台本）

詳細は事務局にお問合せください。



(6) 平和と民主主義の社会をめざす活動

全ての活動の前提となる平和活動を推進し、戦争、核兵器のない世界をめざします。平和な世界を次の世代につなげるための活動として、日生協主催の「ピースアクション」への代表派遣を行います。

1. たすけあい活動

【1】生活クラブのたすけあい活動

公的福祉が後退する今、協同組合には地域のセーフティネットの役割を果たすことが期待されています。それは誰もが安心して暮らし、対等につながり、互いにたすけあう社会を作ることであります。

私たちは共同購入活動を通して組合員（消費者）の力を結集し、社会問題を解決してきました。同じように、たすけあい活動を通して組合員（生活者）の願いを結集し、福祉の課題を解決していきます。住み慣れた地域で誰もが安心して暮らしつづけられる社会を目指し、たすけあい活動に取り組めます。

【2】生活クラブの福祉・たすけあい8原則

各地の生活クラブ、運動グループ、提携生産者が共有し、その地域に必要な機能を描き、「福祉の自給ネットワークづくり」をめざして、「生活クラブの福祉・たすけあい8原則」を定めました。

- 1：多様性
- 2：尊厳の尊重
- 3：参加型社会
- 4：働きがいのある人間らしい仕事
- 5：居場所づくり・役割づくり
- 6：子育て支援
- 7：介護支援
- 8：社会的孤立への支援

原則の詳細は資料編 32 をご覧ください。

2. エッコロ福祉委員会の活動

ブロックに設置するエコロ福祉委員会は、ブロック内でのたすけあい活動を担い、総代会およびブロック大会議案書に則り、たすけあい政策を実行します。

- (1) エッコロ制度の周知、加入促進、利用推進
- (2) 共済(ハグくみ、CO・OP共済)の周知、加入促進、利用推進
- (3) Tハウスの設置推進、情報共有
- (4) 地域課題の発見、共有、解決に向けた活動および交流、学習、研修等の実施
- (5) わ〜くわっくの周知、利用促進
- (6) 支部や連が実施するたすけあい活動のサポート
- (7) エッコロ事由審査
- (8) その他政策実行に必要な活動

3. 4つの「たすけあい活動」

たすけあい活動は大きく分けて4つあります。

「エコロ制度（おたがいさまのたすけあい）」

エコロ制度を理解し、参加し、利用し、広めていく活動です。

「共済（経済的な支え合い）」

生活クラブ共済ハグくみ、CO・OP共済への理解を広げ、加入を増やして、制度をより良くしていく活動です。

「地域コミュニティづくり」

自分がここで安心して暮らし続けていくために何が必要か、考え、学び、行動に移していく活動です。

「福祉事業（わ〜くわっく）」

利用者として、また支援者として関わることで組合員から地域へ安心を広げていく活動です。

また、たすけあいを事業として展開する主体者を生み出していくことも大切な活動です。

【1】エコロ制度

毎月100円の会費で、組合員どうしのたすけあいと地域の福祉活動を応援するしくみです。組合員は会費を支払って制度に加入します。加入率100%を目指しています。

(1) エコロの目的は2つです

① 会員どうしのたすけあい

エコロに加入している組合員が利用できます。

日常生活や子育て中の“ちょっと困った”に対応する「くらしのサポート」、組合員活動を支える「組合員活動サポート」、節目の「お祝い」の3項目から成っています。

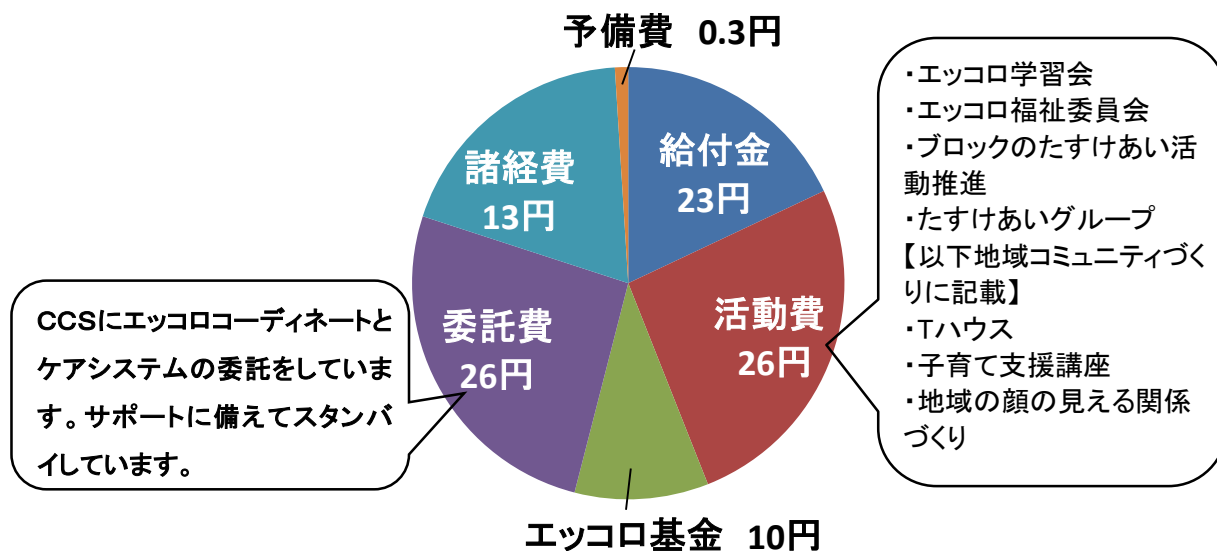
サポートの詳細はエコロ制度ガイドブックをご覧ください。

② 地域の福祉活動

「おたがいさまのたすけあい」を地域に広める活動を、エコロ会費で応援します。孤立しがちな子育て期の方を支援する講座や、「人生100年時代」に直面している高齢期の暮らし方・住まい方を提案したり、住み慣れた地域で安心して暮らせるための活動を支援します。人と人がつながり誰でも集える場やちょっとした相談ができる場（居場所）をTハウスで提供しています。

詳細は【3】地域コミュニティづくりページをご覧ください。

(2) エッコロ会費（100円/月）2020年度予算内訳



(3) エッコロ予算について

エコロ会費を使ってエコロ予算が組まれます。

1. 給付金 「くらしのサポート」「組合員活動サポート」「お祝い」への給付です。

2. 活動費

① エッコロ学習会

・エコロ制度ガイドブックの内容についての学習会です。主催者が支部、または拠点を使って開催する組合員の場合、上限5000円/年の補助があります。

② ブロック活動推進費

・ブロック開催の助成団体との交流、よりよいサポーター研修・交流会、家事支援・託児サポーター研修・交流会、エコロさん交流会、エコロコーディネーターとの交流会、くらし方講座（地域で気軽にたすけあえる人材育成や地域で安心して暮らしていくために必要な講座。介護や託児のための技術講習会含む）などたすけあい活動を推進する活動に使います。

資料編11大人の学校講座、資料編35CCS講座をご覧ください。

③ 地域福祉創設費

- ・新たなたすけあいグループ創設や地域コミュニティづくりを推進するための予算です。
- ・たすけあいグループの活動
- ・介護保険、社会保障制度などのサービス縮小の中、組合員同士のたすけあいのニーズの高まりを見越して、エコロ制度の「サポーターリスト」登録組合員を支部ごとにリスト化し活動します。
- ・たすけあいグループの中でコーディネーターを担う人を「エコロさん」といいます。
- ・たすけあいグループ結成のための活動費用、エコロさんコーディネーター費などの補助があります。 **関連書式40**

④ 委員会活動

エコロ福祉委員会の活動をサポートします。交通費、昼食代をエコロ予算から補助します。

3. エッコロ基金

エコロの組合員どうしのたすけあいを地域のたすけあいに広げるため、また、ハグくみケアサ

ービス充実のため、たすけあいワーカーズを増やしていくことが重要です。

エコロ基金で、関心のある人がワーカーズづくりに取り組みやすくするなどの支援を、埼玉ワーカーズ・コレクティブ連合会（以下W.Co 連合会）に委託しています。**実施要項 資料編 38**

・設立のための学習会

W.Co 連合会に講師を委託。講師の謝礼と交通費をエコロ基金から支出します。

関連書式 50（事務局へ提出）

・たすけあいワーカーズの設立支援

「ワーカーズ・コレクティブ準備会結成届」を理事会に提出後、W.Co 連合会から支援を受けられます。上限 50 万円の設立費用補助と、W.Co 連合会の支援プログラムに沿った組織作りから申請書類の作成補助等、設立までの伴走支援です。

申請はW.Co 連合会が窓口となります。直接W.Co 連合会へ連絡してください。

・既存ワーカーズの新規たすけあい事業支援

W.Co 連合会に加盟しているワーカーズ・コレクティブが、新たにたすけあい事業を展開する際の部品や機材の購入費用が対象です。上限 50 万円。

申請は直接W.Co 連合会へ連絡してください。

[埼玉ワーカーズ・コレクティブ連合会 TEL : 048-767-7511

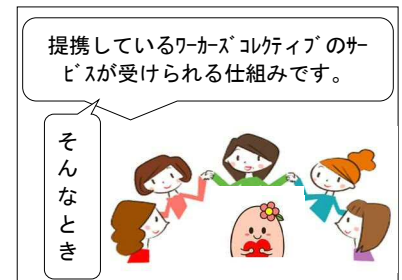
メールアドレス : saitama.waakore@gmail.com]

【2】共済（経済的支え合い）

自分たちに必要な保障を、より多くの組合員がたすけあうことで、制度改善し、たすけあいを本質とする共済に作り上げていくことができます。「もうひとつの消費材」としての「生活クラブ共済ハグくみ」と「CO・OP 共済」の意義と価値を学ぶ機会を持ち、加入をすすめます。共済について学び、共済の価値を伝えること、加入者を増やすことを事務局と連携してすすめていきます。

（1）生活クラブ共済「ハグくみ」

- ①生活クラブ独自の共済で、生活クラブの組合員だけが加入できます。組合員の生活に必要な消費材の一つですので組合員活動ですすすめます。
- ②特徴は、経済的たすけあいだけでなく、直接的サポートのしくみである「生活クラブ共済ケアサービス」を併設していることです。
- ③「生活クラブ共済ケアサービス」とは、地域のワーカーズ・コレクティブ等による生活・家事支援、入通院の付添いなどのサポートを一部自己負担無しで受けられる独自の取組みです。埼玉ではサービスを提供するたすけあいワーカーズの対応範囲を各地域に広めていきます。



※生活クラブ共済ケアサービスについては資料編 33 をご覧ください。

(2) CO・OP共済

全国の生活協同組合の組合員 880 万人が加入している制度です。お互いのたすけあいを支えるとともに、組合員それぞれの状況に合った保障が選べます。

(3) CO・OP火災共済学習会

- ・自然災害が多発しています。生活クラブでは、CO・OP火災および自然災害共済を取り扱います。
- ・学習会を望む組合員を対象に出前講座を行います。基本的な制度内容への理解を深めることを目的に実施をすすめます。

<開催条件>

- ・ブロック・支部・地区の主催で、組合員 5 人以上を条件に開催できます。(員外参加可)
- ・日時：平日 10:00～17:00 で設定して下さい。説明に要する時間は 30 分程度。(質疑応答除く)
- ・開催申請書に第 3 希望まで記載し、開催 4 週間前までに申請します。(生活クラブ本部福祉推進部あて)
- ・会場は主催者で確保。会場費は主催者負担
- ・学習会の費用と講師の交通費は不要。参加者交通費の補助はありません。

関連書式 41

(4) SS カフェ (ソーシャルセキュリティーカフェ：社会保障について知る機会)

社会保障制度を生活に役立てるために、気軽に学ぶ場として開催をすすめています。社会保障制度は、生活を守るセーフティネットの機能を持っており「社会保険」「社会福祉」「公的扶助」「公衆衛生」があります。社会保障を知ること、たすけあいや地域福祉に興味を持ったり、共済に関心を持つきっかけとします。30 分程度の内容なので様々な講座企画に合わせて開催してください。

※申し込みは事務局へ(講師は事務局が担います)。

(5) ライフプラン講座

共済の価値を学ぶ場として「ライフプラン講座」の開催をすすめます。この講座では、共済加入推進や保障の見直し相談を行います。健康で元気に暮らすことや、生きがいを持って幸せに暮らすために必要な保障、人生の節目の計画やその裏づけとなる資金計画を学ぶことを目的に開講をすすめます。

①開催人数

5 人以上 (員外含む)

②開催規模

ブロック・支部 (地区)・委員会で開催可。

③講師

「生活クラブ F P の会」(以下 F P の会) から派遣されます。講師料は無料です。

※講座後、個人相談も設定できます。1 人 5 0 分 (有料) で、事前申込みが必要です。

④支援する費用

学習会開催の支援費は、対象と当日の学習時間・参加人数により異なります。

⑤講座開催の手順

手順	詳細	スケジュール
講座テーマを決め、ライフプラン講座申込書をセンターへ提出。	複数候補日を設定して下さい→後日、F Pの会から結果連絡がくる。	3か月前
会場の確保。チラシの作成。	託児を設ける場合は託児場所を確保する。その他はエコログガイドブック参照	3か月～2か月前
F Pの会の担当者と連絡先の交換。詳細連絡を交わす。	予定人数、会場案内、講師の交通手段に応じ、駅から送迎する場合はその打ち合わせ、主催者側で準備する物など	2か月～1カ月前
チラシ締め切り日にセンターに問い合わせ、参加者人数、託児依頼者状況を確認。		1か月前～3週間前
お茶菓子の注文（領収書必須）	条件を満たす場合補助が出ます。お茶菓子等に充てられます。	2週間前～1週間前
イベント保険の申請	参加予定人数、スタッフ、託児の子ども、託児者、講師など全ての人数で提出（本部）	1週間前～前日
当日：会場セッティング	当日準備するもの：参加者名簿・参加者アンケート・ <u>開催報告書</u> ※・資料・カメラ・お茶菓子 ※講師の振り返り欄を必ず、 <u>当日</u> 講師に書いてもらって下さい。	当日～速やかに
終了後：提出書類をセンターへ提出	開催報告書、チラシ、講座風景写真、参加者名簿、主催者アンケート、領収書（お茶菓子を用意した場合領収書も添付）をそろえ提出	終了後～速やかに

《お当日F Pの会（当日講師）に提出するもの》

- ・参加者アンケート

《終了後の提出書類》

- ・開催報告書

L P講座開催時に主催者が記入し、洩れ、間違えのないようにしてください。「講師の振り返り」欄を必ず当日その場で講師に記入してもらおう。※支援費を請求しなくても必ず提出。

- ・ライフプラン講座チラシ

組合員へ配布したもの（データ可）

- ・講座風景写真

カラー写真データ 1～2枚（携帯写真も可。解像度が極端に低い物は不可。もし写真現物が出てきた時はスキャンして提出。解像度が極端に低い物は不可。）

- ・参加者名簿

支援費を請求しなくても提出必須。（データ可。*組合員の場合は必ず組合員コードを記入。）

*名簿の共済加入覧には、C O・O P 共済に加入されている方は印をつけてください。
(C O・O P 共済は火災を含み、生活クラブ共済、その他保険は含みません。)

・主催者アンケート

アンケートは書式にあります。アンケートは二種類あり、参加者アンケートは終了後回収し講師に渡します。主催者アンケートは終了後速やかに提出します。

・領収書（支払いがあった場合）

支払いの際には、必ず実費分の領収書をセンター事務局へ提出してください。

関連書式 42

ライフプラン講座内容は資料編 34 をご覧ください。

《講座についてのお問合せ》

ワカズ・コレクティブ 生活クラブFPの会

(メール) tomoko-fujii@mx10.ttcn.ne.jp (事務局 藤井智子)

(TEL) 03 - 5285 - 1865 (FAX) 03 - 5285 - 1864

【3】地域コミュニティづくり

(1) Tハウス

①Tハウスの設置について

・Tハウスは子どもから高齢者まで誰でもが集える場、気軽に話ができ情報交換や相談ができる場です。定期的に人の集う場(お茶会など)、福祉の視点を入れた場です。「Tハウス」の「T」はお茶のT、たすけあいのTです。

・「Tハウス」はよりそいサポーター1人以上でスタッフも含めてグループで活動し、支部と連携(協働)します。支部は「Tハウス設置申請書 兼 設置時補助申請書」「Tハウス開催報告書」が提出された際には、確認します。

「Tハウス」の開催場所は、拠点や公共施設が望ましいです。

・Tハウス設置費用補助(新設時上限5000円)、運営費補助(上限3000円/月)があります。

関連書式 43 (支部は提出時の確認必須) ※詳細はエコロガイドブックへ

②よりそいサポーターとは

よりそいサポーター養成講座を修了した組合員で、「Tハウス」を開催、運営します。

また、「困ったな」「あったらいいな」「ちょっと教えて」などの相談にのり、解決策の分かる人や機関につながります。よりそいサポーターは問題解決する人ではありません。当事者と地域をつなぐ接点を作る人、つなぎ役です。そして、つなぎっぱなしではなく、(機関や人)につながったかどうかを見守ります。

③よりそいサポーター研修と支部との連携

・全体でTハウス連絡会(よりそいサポーター現任者研修と連絡会)を開催します。

・ブロック内のよりそいサポーター交流会・研修会を開催できます。

・支部内や、隣接支部のよりそいサポーターの会議に交通費・茶菓代(上限1000円)を補助します。

関連書式 44

<注意事項>

上記費用補助申請は、よりそいサポーターが行います。エコロ制度の予算から拠出され、事由審査が行われます。別途全体補助のある「連」や「ワーカーズ」は申請できません。

(2) 子育て・子育て支援講座

CCS（NPO法人コミュニティアクラブ埼玉）の講座を活用し子育て世代の仲間づくりをしながらポジティブな子育てのスキルを学びます。子育て世代の活動参加に有効であり、また員外参加者が生活クラブに加入する機会としても実績があります。

- ・基本的には支部が主催、ブロックは積極的に支援します。
- ・ファシリテーター（進行役）・講師の謝礼と交通費、会場費はエコロ予算から補助されます。ファシリテーター・講師との打ち合わせ等にかかる費用と事務用品費等は支部負担です。
- ・講座の手配は、事務局へ依頼してください。

関連書式 45

詳細は資料編 35・37 をご覧ください。

①NPプログラム

- ・参加者対象・・・0～5歳までの子どもをもつ保護者 10名前後。原則として全回参加できる方。
- ・回数・・・2時間×6回＋アフタープログラム、体験版があります。
- ・NPプログラムは1980年にカナダで生まれた子育て中の親のための優れた予防型プログラムです。参加者中心のプログラムで各回のテーマは、参加者の希望によって構成されていきます。参加者が互いの気持ち・本音を出し合うことで学び合い、親が自分自身の本来持っている力に気づきます。自分で考え、自分で気づく力を改めて知り、価値観を見いださせてくれるプログラムです。
- ・NPプログラム本企画（体験除く）で使用する茶菓子は、プログラム目的の中にある「リラックスし、和む」ための必要な道具であることを前提に、基本は参加者から500円を徴収し、主催者が茶菓子を用意します。主催者は、7回目のアフタープログラムで、生活クラブとして利用を呼び掛ける消費材を用意するなど、事前にファシリテーターと打ち合わせしておきましょう。500円の配分はNPプログラム6回分を基本とし、7回目のアフタープログラムの茶菓子については参加者の状況を見ながら相談して決めましょう。

②ほめ*ほめ子育てトレーニング

- ・参加者対象・・・3～9歳（16歳頃まで対応可）までの子どもをもつ子育て中の保護者 10名前後。原則として全回参加できる方。
- ・回数・・・1時間45分×7回、体験版があります。
- ・親子のコミュニケーションを良好にする効果的な子どものほめ方・叱り方を、ロールプレイを使って学びます。肯定的な働きかけによって子どもに伝わりやすく、親の負担感を軽くする方法を身につけます。
- ・主催者はパソコン、プロジェクター、スクリーン、ホワイトボードをご用意ください。

③NPプログラム、ほめ*ほめ子育てトレーニング以外の講座

- ・CCSでは、上記講座以外にも講座を用意しているので活用しましょう。

例：育自の魔法、パパのための子育て講座等。

- ・他の団体、個人、行政の方を招いての講座も企画できます。

(3) 子ども食堂

- ・子ども食堂は、成り立ち等も含め様々な思いがあり地域性もあることから、自由な活動として地域コミュニティでの自立と自主性が重要と考え、生活クラブが組織化することは必要ないと判断しています。しかし、現状では生活クラブの支援を受けていたり、拠点等で子ども食堂が複数開催されています。このため拠点で子ども食堂を実施する場合、以下を確認して下さい。
- ・子ども食堂等を開催する時は、食品営業許可やイベントなどの臨時出展届が必要な場合があるので、各保健所に相談して必要な手続きを行いましょう
- ・生活クラブ（支部）が子ども食堂等を開催する場合、また生活クラブの施設を使って子ども食堂等を開催する場合は、生活クラブへの届出をして下さい。営業活動は不可ですが、無料もしくは実費程度の参加費で実施してください。

主催	保健所への対応	生活クラブ施設使用	外部の施設使用	生活クラブへの届出
支部等 (Tハウス、 連も含む)	主催・共催する 場合は保健所に 相談する。(臨 時出店届けや営 業許可)	無料もしくは実費負 担程度の参加費であ れば、多様な世代の 居場所のひとつとし て、「子ども食堂」 を認める。	保健所への対応 必要。営業活動 は不可。左記に 準ずれば可。	ブロック会議への届 出が必要
他団体	各団体で判断		各団体で判断	生活クラブ施設を使用 する場合、ブロック会 議への届出が必要

関連書式 46

(4) 生活クラブフードバンク

- ・フードロスの削減と食を通じたコミュニティ形成支援を目的にした生活クラブ独自のしくみです。飯能デリバリーセンター（飯能DC）にて、組合員へ供給できない在庫品を支部が関わる福祉活動に活かします。
- ・対象：支部が開催している子ども食堂、困窮者への配食等。運動グループ含む。
- ・確認機関：ブロック会議

(5) 若者おうえん基金

児童養護施設や里親など、なんらかの事情があって「社会的養護」と呼ばれる公的な支援のもとで育った子ども・若者たちが、社会の中で自らの力を発揮して生きていくことを応援するために、東京・神奈川・埼玉の生活クラブで首都圏若者ネットワークと連携して基金を創設しました。

学び、働き、暮らすうえでさまざまな困難に直面してる若者達の現状を知り、彼らに伴走支援する身近な団体をさらに応援できるよう、ブロック・支部で交流会を開催しましょう。

関連書式 51

(6)「人生100年時代」への備え

①葬儀学習会・見学会

元気な今だからこそ考えられる自分らしい葬儀や大切な方の葬儀を学習できます。諸手続きの説明及び葬儀の流れ、生活クラブ葬「ゆうなぎ」、エコ棺紹介など、生活クラブ葬祭サービスの職員がわかりやすく説明します。ブロック・支部・地区の主催で、5人以上を条件に開催可(員外参加可)。通常は2時間程度の内容ですが、30分の短縮版も可能です。条件を整えばセレモニーホールを利用しての開催もできます。終了後は、報告書提出してください。

関連書式 47

詳細は資料編 36 をご覧ください。

<問い合わせ>

万が一のその時は、生活クラブ葬祭サービスへ→0120-098-325 (24時間受付・年中無休)
※生前相談やお問合せは月～土 9:00～17:00 にお願ひします

②地域で気軽に助け合える人材育成やで安心して暮らしていくために必要な講座

- ・CCSや大人の学校でさまざまな暮らし方の講座を開催していますので活用しましょう。
- ・CCSの介護技術講座が活用できます。

内容：地域や家庭で介護に携わっている人を対象にテーマを絞って介護に関する技術を勉強します。福祉関連の専門学校の講師をお願いします。

参加者が用意するもの：・大きめサイズで伸縮性のある長袖の上着(かぶりタイプ&前開きタイプ各1) ・汚れてもいい服装

費用：講師謝礼1万円+交通費実費。CCSコーディネート料2,500円。

関連書式 45 (48)

詳細は資料編 11・35・37 をご覧ください。

(7) 地域の課題解決

①自治体との見守り協定

- ・自治体と協定をすることで地域の組合員や配達職員による見守り機能の充実を図ります。
- ・「誰もが安心して、住み続けられる地域づくり」の実現のため、地域における住民同士のお互いさまによる助け合いを基に、地域内の見守り機能の充実を図ることを目指します。
- ・支部を主体にした活動として、「エコロカフェ」や地域協議会等のテーマとして話し合う中で、地域の見守り機能の必要性を確認し自治体への働きかけを行います。締結後、各自治体で開催される連絡会等へは、支部メンバーが出席することが原則です。各支部の活動は、ブロック会議(またはエコロ福祉委員会)を通じて、たすけあい政策委員会で情報共有します。
- ・協定に関する行政との手続きについては、支部がブロック事務局と連携して行います。協定締結の判断はブロック会議とし、役員による「協議・決裁書」事項で承認します。理事会には「総務報告」で情報共有します。

②高齢者・障がい者のための相談窓口（リーガルサポート）

- ・組合員の困りごとに対して専門家へつなげる相談窓口を生活クラブ共済連に設置していますので Tハウスなどでお知らせください。
- ・組合員と家族で高齢者・障がい者の方からの、成年後見人制度・財産管理・介護契約・サービス不服申立・遺言作成等に関する相談を受け付け、生活クラブと連携をとる埼玉弁護士会の担当弁護士を紹介します（弁護士相談は有料）。

受付：毎週木曜日 10：00～16：00 電話番号 03-5285-9031

【4】福祉事業（わ～くわっく）

（1）わ～くわっくの定義と理念

エコロ制度を通じて創り出した「おたがいさまのたすけあい」を基盤とし、組合員がしあわせに暮らし続けられるサステイナブルな社会を、「生活クラブの福祉・たすけあい8原則」をもとに“わ～くわっく”によって実現します。

〈第45回総代会議案書より「わ～くわっく」定義・理念〉

「わ～くわっく」について

定義

- ・誰もが当事者として自分らしく生きること。サポートする人もされる人も、どんな立場でも「その人らしさ」が尊重される福祉事業が“わ～くわっく”です。
- ・誰もが自分らしく生きることが大切に、どんな時も「当事者の気持ち」に寄り添い、共に考え行動するところです。

理念

- ・エコロ制度を通じて創り出した「おたがいさまのたすけあい」を基盤とし、組合員がしあわせに暮らし続けられるサステイナブルな社会を、「生活クラブ福祉・たすけあい8原則」をもとに“わ～くわっく”によって実現します

（2）「わ～くわっく北本」

生活クラブ埼玉は北本生活館において、福祉事業「みんなの居場所 わ～くわっく北本」を行っています。その運営を「特定非営利活動法人 ワーカーズ・コレクティブ てとて」に委託しています。新規居場所事業開発や、W.co てとて独自事業と協同し、地域に貢献することをめざしています。

- ・社会課題や解決のための提言を発信し、研修受け入れなど、福祉に関わる人材の育成にも取り組んでいます。
- ・生活クラブが取り組む居場所事業として、地域サロン（ランチ・喫茶、各種教室・企画）、親子ひろば、一時託児、福祉相談等を行っています。
- ・「わ～くわっく北本」の見学ができます（2時間を目安）。

関連書式 49

(3) 「わ〜くわっく狭山」・「わ〜くわっく草加」

- ・「デイホームわ〜くわっく」は、高齢、障がいがあっても、今まで通りの暮らし方をしたいという組合員の想いで、1995年8月組合員の利用事業として始まり、2001年から介護保険事業に参入しました。
- ・地域に住む生活者が、その地域で必要なサービスをつくり、自分たちで運営し、さらに自分たちが利用する市民参加型の福祉事業をめざしてきました。
- ・2019年4月より、「わ〜くわっく狭山」「わ〜くわっく草加」共にCCSが事業主体となりました。地域福祉の拠点となり、介護保険事業を中心とした事業運営を進めます。

※見学のお問合せ・申込みは、各センター事務局へご相談ください。

(4) 「わ〜くわっく花グループ館」

- ・わ〜くわっく花グループ館では、2017年4月より草加市より介護予防・日常生活支援総合事業(通所型サービスB)の事業指定を受け開所しています。

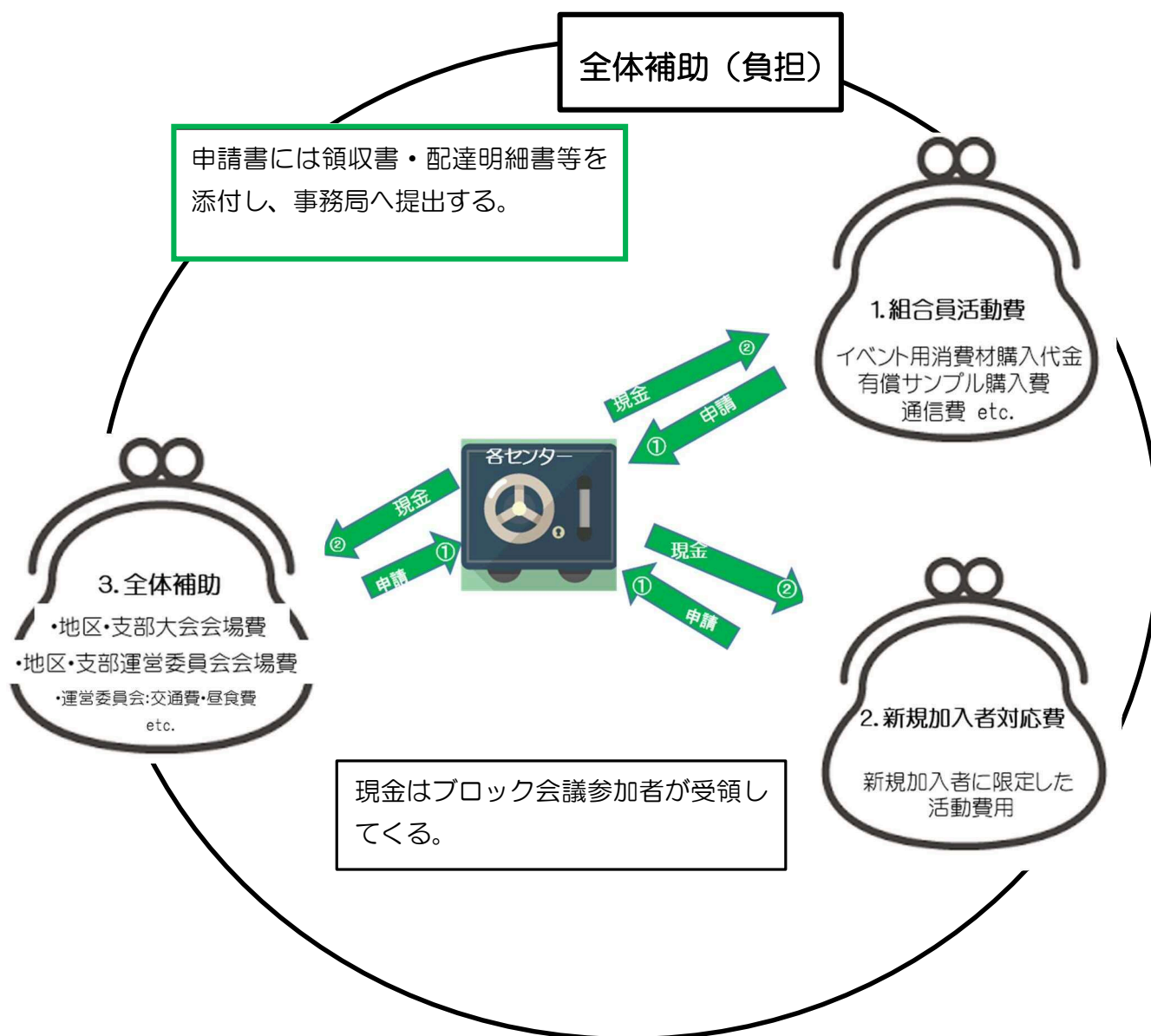
1. 全体補助（負担）とは

生活クラブ生協の活動を行うにあたり、全体から補助される活動費があります（下記以外にも、年度途中で理事会からの提案で補助されるものもあります）。

【組織活動の全体補助（負担）】

	補助内容	適用条件
地区・支部大会会場費	全額	領収書添付
地区・支部運営委員会会場費	全額	領収書添付
支部での各委員会の会場費	全額	領収書添付
支部運営委員会 交通費・昼食費	実額補助 (交通費 3,000 円以上は領収書添付)	・昼食費は領収書添付 ・徒歩・自転車には払わない
支部運営委員研修	日帰り 交流会費(上限 3,000 円/人) 交通費、会場費、昼食費全額 宿泊 宿泊費(上限 10,000 円/人) 交通費、会場費、昼食費全額	・2月～5月末までの研修に限る。対象は、支部運営委員と運営委員会が必要と認めた組合員 ・開催にあたっては開催2週間前までに申請書を、開催1週間後までに報告書を各ブロック事務局に提出すること。見学を兼ねた研修は対象外 関連書式 7
組合員活動費	拡大・利用結集・まちづくり活動・組織運営に対して、支部供給高の 0.1% を限度とした実費補助	領収書を添付 ・内容が分からない費用、人件的な費用、くらぶルーム費用は認めない 関連書式 60
新規加入者対応費	支部の加入数×1000 円を限度として実費補助	領収書を添付 費用補助の適用条件等は資料編 14 参照 関連書式 61
支部チャレンジ予算	支部活動の費用補助 ・支部単独、又は複数支部合同の企画で、支部予算で賄うことができないものに活用する。 ・予算管理はブロック会議とし、ブロックの予算は 100 万円とする。	・支部運営委員会の承認後、ブロック会議へ提案し承認を得る ・ブロック会議は理事会へ企画書として提出
くらぶルーム	初期開設費用 月々の維持費用(限度額右記)など	・支部内設置数に関係なく前年度支部供給高の 1.0%

	補助内容	適用条件
くらぶメゾン(支部スペース)	月々の維持費用(限度額右記)など	・前年度支部供給高 1.0%
拠点組活動費	右記条件を満たしている拠点に設置されている全ての組に対して組供給高の 0.5%	・実利用 25 人以上の組×2 つ以上設置されている拠点(生活館・くらぶルーム)
班・組結成サポート	班・組を新規結成した際、その準備にかかる経費(受け取り容器・はかりの購入実費など)を補助	・新規加入者あるいは個別配送からの移動者を含む 4 人以上で新班結成の場合、上限 10,000 円 ・新規に 15 人以上で組を結成した場合、組運営のスタート準備経費 上限 40,000 円 関連書式 4
組活動費	実利用 15 人以上、月利用高の 1.5% 実利用 25 人以上、月利用高の 2.0%	・組として申請している 関連書式 4
ブロック会議メンバー研修	日帰り 交流会費(上限 3,000 円/人) 交通費、会場費、昼食費全額 宿泊 宿泊費(上限 10,000 円/人) 交通費、会場費、昼食費全額	・新メンバー確定後～7 月までの研修に限る ・対象: ブロック会議に参加している支部運営委員長、ブロック役員、ブロック企画参加の事務局(職員・共同購入ワークス代表)理事の参加も可 ・開催にあたっては開催 2 週間前までに申請書を、開催 1 週間後までに報告書を理事会事務局に提出すること ・見学を兼ねた研修は対象外 関連書式 7
ブロック役員に対する費用実費弁済	活動にかかる費用実費全額・委任料	・ブロック役員経費として申告する
理事に対する費用実費弁済	活動にかかる費用実費全額・委任料	理事経費として申告する
監事に対する費用実費弁済	活動にかかる費用実費全額・委任料	監事経費として申告する
連活動補助費	年度上限 10,000 円 申請金額は代表者の口座に 5 月の集金相殺で支払われる	・組合員 3 名以上、12 月末までに支部委員会承認を受けたグループ ・領収書添付: 実費 補助費申請期間 2 月～3 月 関連書式 9



※他にブロック予算で補助が提案されることもあります。
 ※たすけあい関連の補助については資料編 37 を参照してください。

2. 2021 年度組合員活動費・新規加入者対応費用マニュアル

【1】組合員活動費

(1) 限度額

申請して受け取ることができる金額は、各支部の組合員活動費限度額（各支部の供給高の0.1%）までです。組合員活動費限度額は、毎年4月と10月に各支部へ事務局から、組合員活動費補助限度額通知書により通知されますので、その額の範囲で申請してください。

- ・2021年度上半期（4月通知分）は、2020年10月～2021年3月までの供給高の0.1%
- ・2021年度下半期（10月通知分）は、2021年4月～2021年9月までの供給高の0.1%

※組合員活動費限度額は、毎年4月1日～翌年3月31日の期間で締め切り、年度末に組合員活動費限度額に申請残高があっても次年度へは繰り越せません。

(2) 申請できる費用

組織拡大活動、利用結集活動、まちづくり活動、たすけあい活動、組織運営に関係するすべての費用を申請することができます。

料理講習会費用（材料費、会場費、講師謝礼、紙コップやラップなど）、学習会や講演会の費用（会場費、講師謝礼、資料代、昼食費など）、会議の資料のコピー代、研修参加費、会議の茶菓子（消費材の試食を含む）、通信費、交通費（公共交通機関を利用した場合の実費）など。

(3) 申請できない費用

前年度分の費用、人件費的な費用、くらぶルームの費用、自転車や徒歩に対する交通費、販売目的で購入した費用、全体負担されるもの。

※まつり等の販売目的で購入した消費材などについては、支部・地区活動費の中から支払う。

【2】新規加入者対応費用

(1) 限度額

新規加入者対応費用は、新規加入者への活動計画が議案書に記載されている支部のみが受取れます。申請して受け取ることができる金額は、各支部の新規加入者対応費用限度額（各支部の新規加入者実数×1,000円）までです。新規加入者対応費用限度額は、毎年4月と10月に各支部へ事務局から、新規加入者対応費用補助限度額通知書により通知されますので、その額の範囲で申請してください。

- ・2021年度上半期（4月通知分）は、2020年10月～2021年3月までの加入数×1,000円
- ・2021年度下半期（10月通知分）は、2021年4月～2021年9月までの加入数×1,000円

※新規加入者対応費用限度額は、毎年4月1日～翌年3月31日の期間で締め切り、年度末に新規加入者対応費用限度額に申請残高があっても次年度へは繰り越せません。

(2) 申請できる費用

新規加入者対応（新規加入者のみを対象とした費用に限定）に関係するすべての費用を申請することができます。

活動対象を新規加入者に限定するもの（新規加入者対応をする際に使用する独自印刷物や、新規加入者と対面するためにかかる交通費、試食などに係る費用、新規加入者対応研修参加費用等）、通信費など。

(3) 申請できない費用

組合員活動費と同様です。

【3】申請方法と支払方法

各支部は、組合員活動費申請書(書式 60-1)、新規加入者対応費用申請書(書式 61-1)を作成し、領収書を添付して毎月ブロック事務局（各センター）に提出してください。現金で支部運営委員会に支払われます（職員が申請書を受け取り、次月運営委員会時に支払うか、ブロック会議時に支払う）。ただし、交通費(書式 60-2、61-2)については、集金時に指定組合員の共同購入代金の引落とし金額と相殺して支払われます。

申請書(書式 60-1、61-2)は、支出がない月も0円を記入して提出してください。

(1) 申請書の書き方 A～Iは申請書の欄を表します。詳細は資料編 39 をご覧ください。

- A：支部名、代表者を記入し、代表者が押印してください。実際に申請書(書式 60-1、61-2)を作成するのは会計を担当している委員という場合が多いと考えられますが、代表者は支部代表(支部運営委員長)とし、支部代表(支部運営委員長)が確認するという意味で押印してください。
- B：限度額の欄には4月に上半期の組合員活動費補助限度額通知書により通知された金額を記入し、5月以降は、前月の繰越金額を記入してください。10月には9月からの繰越金と下半期の組合員活動費補助限度額通知書により通知された金額を記入してください。合計額も記入下さい。
- C：日付は領収書と一致させてください。
- D：活動内容、企画名、摘要欄はいずれも空欄のないように記入してください。
- E：「食品」と「食品以外」(酒類・外食含む)に分けて記入し、その合計を支出計として記入。領収書の番号と一致させてください。
- ☆組合員活動費補助限度額を超過した場合は、現金申請超過分でマイナス計上してください。
- F：支出の合計額を計算して記入(「食品」・「食品以外」それぞれの合計も)してください。
- G：交通費は、別途とりまとめた交通費申請書(集金相殺用：書式 60-2, 61-2)の合計額を集金相殺の欄に記入してください。
- H：集金相殺の合計額を計算して記入してください。
- I：FとHを転記し、その合計額を記入してください。

(2) 領収書についての注意

- ①組合員活動費申請書(書式 60-1)に記載した支出については、領収書添付が必須。領収書のないものは申請できない。
- ②領収書は総額ではなく、内訳のわかるものとする。また、領収先の住所・氏名が記載されていることが必要。
- ③個人的な買い物とは別の領収書とする。
- ④生活クラブの消費材を使用する場合、できるだけ支部や地区の OCR を使い、その配達明細書または引落通知書を領収書として使用する。組合員の配達明細書または個人引落通知書を使用する場合は、使用したものがわかるように印をつけて内訳がわかるようにする事。
- ⑤領収書類は、A 4 の別紙に組合員活動費申請書(書式 60-1)に記載した領収書番号と同じ番号を書き、順に並べて貼付して組合員活動費申請書に添付する。

詳細は資料編 39 をご覧ください。

(3) 交通費の申請について

- ・交通費を申請する場合は、「交通費(集金相殺用)申請書(書式 60-2, 61-2)」を添付する。
- ・「交通費(集金相殺用)申請書」には、参加した各組合員に経路と利用交通機関(バス、電車、自家用車など)及び交通費(往復代金)を記入してもらう。
- ・活動費申請書(書式 60-1、61-2)には、交通費を申請する人全員の合計額を記入する。

(4) 通信費の申請について

- ・通信費申請書(書式 60-3)は一人1枚作成し、支部名、地区名、名前を記入し、押印する。
- ・通信費の額は、固定電話・携帯電話は1分の通信につき20円、ファックス・メールは1通の通信につき20円、データ量に上限がある回線(モバイル回線)を使用した場合は1分の通信につき10円として使用数を掛けて料金を計算し、合計額を記入し申請する。
- ・活動費申請書(書式 60-1)には、通信費を申請する人全員の合計額を記入する。

3. マイナンバー制度に伴う「講師料・謝礼」の取り扱いについて

【1】学習会・講演会・講習会等の講師への対応

- (1) 学習会等の個人への講師謝礼に対しては源泉所得税が発生します。支部・ブロック・全体・その他(連・エコロひろば等)で開催する学習会等で講師依頼をする際は、先方に個人 or 法人として講師を受けるのかを確認のうえ、個人に対して講師謝礼を支払う際は源泉所得税を含んだ領収書を受け取るようにして下さい。(詳細は【2】の「-講師料・謝礼が発生する際の処理方法-」参照)
- (2) 毎年、本部総務部にて年始に支払調書を作成し税務署へ提出しています。講師一人一人の年間講師料の金額によって支払調書が必要になる場合と不要になる場合が発生します。マイナンバーの取得が必要となる場合は、総務部より講師等本人に連絡を取り、マイナンバーのコピー・本人確認書類の返送等の依頼対応をしていきます。

【2】講師料・謝礼が発生する際の処理方法について ー

学習会や講演会・講習会を開催し、個人に講師料・謝礼を支払う時は源泉所得税を加算した領収書の発行が必要です。ただし、団体や企業に対して講師料などの謝礼を支払う場合は源泉所得税の対象となりません。

(1) 領収書を作成する際の注意

- ①講師料などの謝礼とは別に交通費が発生する場合は、別途領収書を発行して下さい。
- ②源泉所得税は、生活クラブの負担となります。
- ③講師料などの謝礼を個人に支払う場合は、領収書に記載する「総額」には、源泉所得税や消費税などが含まれていますので、実際に支払う金額とは異なります。
- ④企業や団体に対して講師料などの謝礼を支払う場合は源泉所得税の対象となりませんので、実際に支払う講師料のみを記載した領収書を使い、金額を渡します。

(2) 領収書記入例

個人に渡す時の領収書記載例：講演会講師料として 10,000 円を支払う

- ・開催日の日付
(または講師が講師料を受け取る日付)
- ・宛名は「生活クラブ生活協同組合」
- ・金額は、源泉所得税を含んだ金額を記入する。
(実際に渡す金額は 10,000 円)
- ・但書きは、「●●講演会講師料として」と記入
- ・講師に直筆で、住所・氏名・電話番号を記載してもらう(印鑑があれば尚、良い。)

※記載金額については、別表の「報酬金額(源泉所得税)早見表」を参照のこと

領 収 書	2020年4月1日
生活クラブ生活協同組合 様	
¥11,137-	
但 ぐみ環境講演会講師料として	
上記正に領収いたしました さいたま市南区別所5-1-11 生活 花子 電話番号 〇〇〇-〇〇〇-〇〇〇〇	

(3) 組合員活動費で申請する際の記入方法

- ・講師料として源泉税を含んで記載してください。
- ・その下段に源泉所得税を「マイナス」で記載してください。(マイナスは▲で記入)

2020年度4月分組合員活動費申請書					
(生活)支部運営委員会		限度額			
代表者: ○		※14年度 上期・下期			
		月繰越分			
		合計			
<small>※4月・10月分申請書に記入(上期・下期どちらかに○)</small>					
<現金申請>					
日付	活動内容	企画名	摘要	支出	番号
4/1	まちづくり	ゴミ環境講演会	講師料(生活 花子)	11,137	①
4/1	まちづくり	ゴミ環境講演会	源泉所得税(生活 花子)	▲ 1,137	①
現金申請計				10,000	

① 領収書 2020年4月1日

生活クラブ生活協同組合 様

¥11,137-

但 ゴミ環境講演会講師料として

上記正に領収いたしました

さいたま市南区別所5-1-11

生活 花子

電話番号 〇〇〇-〇〇〇-〇〇〇〇

報酬金額(源泉所得税)早見表

報酬支払金額	1,000	2,000	3,000	4,000	5,000	6,000	7,000	8,000	9,000	10,000
領収書金額	1,113	2,227	3,341	4,454	5,568	6,682	7,795	8,909	10,023	11,137
源泉所得税	113	227	341	454	568	682	795	909	1,023	1,137

報酬支払金額	11,000	12,000	13,000	14,000	15,000	16,000	17,000	18,000	19,000	20,000
領収書金額	12,250	13,364	14,478	15,591	16,705	17,819	18,933	20,046	21,160	22,274
源泉所得税	1,250	1,364	1,478	1,591	1,705	1,819	1,933	2,046	2,160	2,274

支払金額	21,000	22,000	23,000	24,000	25,000	26,000	27,000	28,000	29,000	30,000
領収書金額	23,387	24,501	25,615	26,729	27,842	28,956	30,070	31,183	32,297	33,411
源泉所得税	2,387	2,501	2,615	2,729	2,842	2,956	3,070	3,183	3,297	3,411

支払金額	31,000	32,000	33,000	34,000	35,000	36,000	37,000	38,000	39,000	40,000
領収書金額	34,525	35,638	36,752	37,866	38,979	40,093	41,207	42,320	43,434	44,548
源泉所得税	3,525	3,638	3,752	3,866	3,979	4,093	4,207	4,320	4,434	4,548

支払金額	41,000	42,000	43,000	44,000	45,000	46,000	47,000	48,000	49,000	50,000
領収書金額	45,662	46,775	47,889	49,003	50,116	51,230	52,344	53,458	54,571	55,685
源泉所得税	4,662	4,775	4,889	5,003	5,116	5,230	5,344	5,458	5,571	5,685

支払金額	55,000	60,000	65,000	70,000	75,000	80,000	85,000	90,000	95,000	100,000
領収書金額	61,254	66,822	72,391	77,959	83,528	89,096	94,665	100,233	105,802	111,370
源泉所得税	6,254	6,822	7,391	7,959	8,528	9,096	9,665	10,233	10,802	11,370

アースメイド野菜	29	原発のない社会を目指す活動	41
あっぱれ育ち	29	合成洗剤をやめていのちと自然を守る埼玉連絡 会	40
甘夏みかん消費地交流会	34	CO・OP火災共済学習会	47
アルバムカフェ	23	CO・OP共済	47
安心よやくらぶ	29	子ども食堂	51
イベント保険	22	個配	8
運動グループ	17	コミュニティケアクラブ埼玉 (CCS)	18
映画「遺伝子組み換えルーレット」	39	米消費地交流会	33
SDGs	6	埼玉県市民ネットワーク	17
エコロさん	45	埼玉ワーカーズ・コレクティブ連合会	17
エコロ制度	44	サステイナブル フェス!	20
エコロ福祉委員会	43	サポーターリスト	45
NPプログラム	50	三富 (さんとめ) 協同村	16
FEC 自給圏	6	三富ライフファーム株式会社	18
L's(エルズ) 選定品	29	GMOフリーゾーンサポーター宣言	39
大人の学校	18	GM ツリーの図	39
拡大チラシ・拡大サンプル	23	GMナタネ自生調査	39
カタログ回収	41	GMフリーゾーン宣言	39
COMEONかもん	4	自主運営・自主管理	3
監事会	13	自主基準	28
議案書	10	試食会	32
機関紙	24	自然エネルギー	41
キャラバンカー	23	自然エネルギー基金助成	42
協同組合	2	支部	9
共同購入 (利用結集) 活動	27	支部運営委員研修	11
共同購入ワーカーズ	13	支部大会	10
共同班	8	支部2ヶ年計画	15
組	8	シャボン玉月間	39
組合員の形態	8	10のThink & Act	5
くらぶメゾン	16	出資・利用・運営	4
くらぶルーム	15	省エネ講座	42
クリーンアップ大作戦	20	紹介活動	22
グリーンシステム	41	消費委員会	29
グリーンファンド秋田	42	消費材	27
クリスマス正月用消費材試食会	32		

消費材開発改善要望.....	36	組織.....	7
消費材 Step Up 点検.....	35	組織の協業と分業.....	14
食育講座.....	35	大試食会（生産者 10 団体以上）.....	33
食と環境カレッジ.....	22	大豆一粒運動.....	39
食肉学習会（豚肉、牛肉、鶏肉）.....	33	たぐいまれ.....	29
新・おしゃべりキッチン.....	33	たすけあい活動.....	43
新規加入者対応.....	22	たすけあいグループ.....	45
ストップ遺伝子組み換え（NON-GM）運動.....	38	単位生協（単協）.....	2
3R.....	41	地域協議会.....	19
生活館.....	15	地区.....	9
生活館運営委員会.....	16	地区・支部運営委員会.....	10
生活館協議会.....	16	地区大会.....	10
生活クラブ運動グループ宣言.....	19	中期計画.....	7
㈱生活クラブエナジー.....	41	提案書.....	10
生活クラブFPの会.....	47	Tハウス.....	49
生活クラブ共済「ハグくみ」.....	46	デポー.....	16
生活クラブでんき.....	41	デポー（店舗）組合員.....	9
生活クラブ 2030 行動宣言.....	6	電気の学習会.....	41
生活クラブのエネルギー7原則.....	38	でんき Life Book.....	42
生活クラブの消費材 10 原則.....	27	展示説明会.....	23
生活クラブの情報媒体.....	24	展示説明車.....	23
生活クラブの福祉・たすけあい8原則.....	43	展示即売会・内覧会.....	36
生活クラブフードバンク.....	51	トラスト運動.....	40
生活宣言.....	5	どんぐりヤマ.....	16
生産原価保障方式.....	27	仲間づくり.....	19
生産者見学会.....	34	ニュース・チラシ.....	24
生産者交流会.....	32	はればれ育ち.....	29
生産者コラボ企画.....	22	ピースアクション.....	42
せっけん.....	39	バイオサポーター養成講座.....	35
専従職員.....	13	バイオサポ活動ツール.....	36
全体補助（負担）.....	55	バイオサポ基礎講座.....	35
葬儀学習会・見学会.....	52	ビジョンフード.....	29
創作昆虫ムシボット.....	20	ビジョンフードよやくらぶ.....	29
総代.....	13	ひとことカード.....	4
総代会.....	13	一人一票.....	3
ソーシャルメディア利用についての留意点.....	26	Facebook グループ生活クラブ埼玉組合員サイ	

ト	25	メールマガジン	24
豚加工肉学習会	33	森と水の実行委員会	40
ブロック	12	結	9
ブロック会議メンバー研修	12	有償サンプル	32
ブロック総代	12	予約（食べる約束）	27
ブロック大会	12	よりそいサポーター	49
平和と民主主義の社会をめざす活動	42	ライフプラン講座	47
報告承認	10	理事会	13
ほめ＊ほめ子育てトレーニング	50	R（リターナブル）びん	41
まちづくり活動	17	連	17
まちづくり方針	19	わ～くわっく	53
まつり	33	わかって食べる人	29
見守り協定	52	若者おうえん基金	51
ムシボット	20		



生活クラブ埼玉 HP の「組合員メニュー（スマホは右上 MENU）」

⇒ 「活動ツール」 > 「2021 年度活動ハンドブック」 > 「資料編」

NO	資料
組 織 活 動	
1	協同組合原則（ICA 声明）
2	OCR・eくらぶを使ったアンケート
3	10 の Think&Act
4	第 7 次中期計画抜粋
5	「組」運用規定
6	拠点ルール・補助等
7	三富協同村構想
8	組合員活動支援制度「連」
9	ワーカーズ・コレクティブ
10	市民ネットワーク
11	大人の学校 講座メニュー
12	生活クラブ運動グループ宣言
13	イベント保険
14	新規加入者対応に関する費用補助
15	生産者コラボ企画
16	イベントマニュアル
17	アルバムカフェ
18	生活クラブの広報媒体一覧
19	Facebook グループ 組合員サイト
20	プレスリリース例文
21	ソーシャルメディア利用の留意点
共 同 購 入 活 動	
22	生活クラブの消費材 10 原則
24	食肉類の食中毒予防マニュアル
25	おしゃべりキッチン手引き
27	展示即売会マニュアル
28	消費材事故・クレーム対応比較表

NO	資料
サ ス テ イ ナ ブ ル 活 動	
29	生活クラブのエネルギー 7 原則
30	生活クラブでんき推進のための資料
31	省エネ講座
た す け あ い 活 動	
32	生活クラブの福祉・たすけあい 8 原則
33	生活クラブ共済ケアサービス
34	ライフプラン講座
35	CCS 講座メニューと補足
36	葬儀学習会・見学会
37	たすけあい活動補助一覧
38	エココ基金実施要項
会 計	
39	活動費関連書式 記入例

各項目の詳細資料を HP に掲載しています。紙資料を希望の方は事務局にお問い合わせください。



生活クラブ埼玉 HP の「組合員メニュー（スマホは右上 MENU）」

➤ 「活動ツール」 ➤ 「2021 年度活動ハンドブック」 ➤ 「書式編」

※頁は、本冊の主な該当ページを指します。

NO	書式名称	頁
組 織 活 動		
1	活動参加名簿	-
2	ひとことカード	4
3	注文書のアンケート調査申請書	5
4	班・組 設置・解散 関連書式	8
5	大会完了報告書	10
6	報告書・提案書・運営委員会報告書	9
7	支部（ブロック）運営委員研修 書式	12
8	拠点活動 関連書式	15
9	「連」 関連書式	17
10	埼玉 W.co 連合会見学研修等依頼書	17
11	イベント保険申請書&報告書	22
12	新規加入者の集い・説明会報告書	22
13	アルバムカフェ報告書式	23
14	HP 情報掲載・メルマガ配信依頼書	24
共 同 購 入 活 動		
20	利用促進イベント計画シート	31
21	生産者交流会関連書式	31
23	食育講座申込書	35
24	ピオサボ講座 関連書式	35
25	展示即売会 関連書式	36
26	消費材への意見・要望集約表	36

NO	書式名称	頁
サ ス テ イ ナ ブ ル 活 動		
30	GM フリーゾーン登録用紙	39
31	遺伝子組み換えルーレット上映申込	39
32	森と水の出前講座申込書	40
33	でんきの共同購入学習会 関連書式	42
36	さんとめどんぐりヤマ 関連書式	16
た す け あ い 活 動		
40	たすけあいグループ 関連書式	45
41	CO・OP 火災共済学習会 関連書式	47
42	ライフプラン講座 関連書式	47
43	Tハウス 関連書式	49
44	よりそいサポーター 関連書式	49
45	子育て支援講座 関連書式	50
46	子ども食堂等届け出用紙	51
47	葬儀学習会・見学会 関連書式	52
48	地域コミュニティづくり予算執行報告書	52
49	わ〜くわっく北本見学申込書	53
50	エコロ基金 助成申請書・請求書	46
51	若者おうえん基金交流会 申請書	51
会 計		
60	組合員活動費 申請書式	58
61	新規加入者対応費用 申請書式	58

各書式を HP に掲載しています。紙資料を希望の方は事務局にお問い合わせください。

ブロック地図とセンター所在地



本部	333-0857	川口市小谷場 206	☎048-424-2763 fax048-424-2796
コールセンター		同上	☎048-423-7991
狭山センター	350-1328	狭山市広瀬台 2-12-28	fax 04-2955-8777
所沢センター	354-0045	入間郡三芳町大字上富 474-2	fax 049-259-5817
川口センター	333-0857	川口市小谷場 206	fax 048-424-5386
越谷センター	343-0844	越谷市大間野町 1-21-2	fax 048-988-3913
大宮センター	337-0004	さいたま市見沼区卸町 1-18	fax 048-686-8160
熊谷センター	360-0012	熊谷市上之 781-1	fax 048-525-6851

(2021年2月末現在)

2021年度版生活クラブ活動ハンドブック
発行日：2021年2月24日
発行責任：生活クラブ生活協同組合理事会
発行者：生活クラブ生活協同組合（埼玉）川口市小谷場206